

第 63 回

令和7年度

神奈川県立高等学校

PTA連合会大会



期 日 令和7年11月29日（土）

会 場 伊勢原市民文化会館 大ホール

主 催 神奈川県立高等学校PTA連合会

後 援 神奈川県教育委員会

公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部

協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

ご あ い さ つ

神奈川県立高等学校 P T A 連合会

会 長 内田 裕美

令和 7 年度第 63 回神奈川県立高等学校 P T A 連合会大会を本日開催できますこと、心より感謝申し上げます。

また、日頃より高 P 連の活動や事業にご理解とご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

本日はご多忙の中、神奈川県教育委員会教育長花田忠雄様、一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会理事長中野真衣子様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、神奈川県 P T A 協議会会長の太田様、各市 P 連の会長の皆さま、そして茨城県高 P 連会長の櫻井様にもお越しいただき、横のつながりを感じられることを大変嬉しく思います。

さて、今年度の高 P 連の活動について少しお話します。

まず、県大会の申込方法ですが、個人での Q R コードの申し込みが定着しつつあり、「来たい人が来られる大会」を実感しています。

また、まもなく発行される高 P 連会報は、調査広報委員長の思いが詰まった“みんなが読みたくなる会報”を目指し、新しいトピックスを加えました。2 月の発行を楽しみにお待ちください。

そして、会場入り口にある大会の看板は恒例となりましたが、副会長の関が手作りしました。どうぞ記念撮影にご利用ください。

本日は多くの表彰に加え、役員・理事が選出した 2 校による活動事例発表がございます。皆さまの活動のヒントになれば幸いです。

また講演では、雅楽師の東儀秀樹様に『すべてを否定しない生き方』をテーマにお話していただきます。私たちが思いを込めて選んだテーマと講師で、私自身もとても楽しみにしております。

最後になりましたが、本日の学びが P T A 活動の活性化やお子さんの健全育成につながることを願い、ご参加の皆さまのご健勝とご発展を祈念して私からの挨拶とさせていただきます。

目 次

ごあいさつ

神奈川県立高等学校PTA連合会 会長 内田 裕美

◆大会要項・日程等◆

大会要項	1
大会日程	2
大会役員	3
大会来賓・広報紙コンクール審査委員	4
表彰者名簿	5

◆広報紙コンクール・広報紙「表紙」コンクール◆

募集要項	6～7
第49回広報紙コンクール・第9回広報紙「表紙」コンクール表彰校	8
歴代最優秀賞受賞校（過去15年間）	9

◆講演・PTA発表◆

講演	演題：『すべてを否定しない生き方 ～何事も前向きに考える方法論～』 講師：東儀 秀樹 氏	10
活動事例発表1	県立希望ヶ丘高等学校PTA	11
活動事例発表2	県立市ヶ尾高等学校PTA	12

◆地区協議会報告◆

横浜北地区	13～22
横浜中地区	23～25
横浜南地区	26～29
川崎地区	30～35
横須賀三浦地区	36～39
湘南鎌倉地区	40～46
平塚秦野地区	47～51
県西地区	52～54
県央地区	55～61
相模原地区	62～72
専門教育部会	73

◆参考資料（高P連・県教育委員会）◆

高P連

令和7年度組織概要	74
〃 事業概要	75
〃 地区大会一覧表	76
〃 地区交通安全大会一覧表	77
〃 高P連交通安全対策組織図	78
県大会講師一覧	79

県教育委員会

子どもの成長を支援するための主な相談機関一覧	80～81
------------------------	-------

◆安全振興会のあらまし

A-1～A-10

◆大会要項・日程等◆

第 63 回 神奈川県立高等学校 P T A 連合会大会要項

<趣旨>

P T A 活動に尽力し、顕著な業績をあげた P T A 及び個人を表彰するとともに、事例発表などを通じて P T A 活動に関する情報を提供し、新しい時代の P T A 活動の充実と発展に役立てる。また、青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の提供も行う。

<テーマ>

『学び・伝え・活かす』

I 大会概要

- 1 主 催 神奈川県立高等学校 P T A 連合会
- 2 後 援 神奈川県教育委員会
公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部
- 3 協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
- 4 期 日 令和 7 年 11 月 29 日（土）12：30～16：05
- 5 会 場 伊勢原市民文化会館
（〒259-1188 神奈川県伊勢原市田中 3 4 8 番地）
- 6 参加者 神奈川県立高等学校・中等教育学校 各校 P T A 会員
- 7 参加費 無料

II 大会時程

- 1 会場受付 12：00～
- 2 開会式・表彰 12：30～
- 3 作文コンクール 13：05～
- 4 広報紙コンクール 13：15～
- 5 休 憩 13：35～
- 6 P T A 活動事例発表 13：45～
- 7 保険説明 14：30～
- 8 休 憩 14：35～
- 9 講 演 14：45～
演題： 「すべてを否定しない生き方
～何事も前向きに考える方法論～」
講師： 東儀 秀樹 氏（雅楽師）
- 10 閉 会 16:05（予定）

大 会 日 程

I 大会開会式・表彰式 (12:30～13:00)

(司会：神奈川県立高等学校PTA連合会 副会長

釣 一 博)

- 1 主催者あいさつ 神奈川県立高等学校PTA連合会 会長 内 田 裕 美
神奈川県立学校長会議 議長 會 田 勉
- 2 来賓あいさつ 神奈川県教育委員会 教育長 花 田 忠 雄
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会 理事長 中 野 真衣子
- 3 県知事感謝状 贈呈
- 4 高P連会長感謝状(個人)、表彰状(団体) 贈呈
- 5 謝辞 神奈川県立高等学校PTA連合会 前副会長 植 村 哲 哉

II 作文コンクール最優秀作朗読 (13:00～13:10)

- 1 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会 作文コンクール最優秀作朗読
- 2 記念品贈呈

III 広報紙コンクール・「表紙」コンクール表彰式 (13:15～13:35)

◆◆◆◆◆ 休憩 (13:35～13:45) ◆◆◆◆◆

IV PTA活動事例発表 (13:45～14:30)

- 1 活動事例発表1 13:45～14:05
発表校 横浜中地区 希望ヶ丘高等学校PTA
- 2 活動事例発表2 14:10～14:30
発表校 横浜北地区 市ヶ尾高等学校PTA

V 保険説明 (14:30～14:35)

◆◆◆◆◆ 休憩 (14:35～14:45) ◆◆◆◆◆

VI 講 演 (14:45～16:00)

演題：『すべてを否定しない生き方 ～何事も前向きに考える方法論～』

講師：東儀 秀樹 氏

大 会 役 員

会 長	内田 裕美	
副 会 長	村田 広美 関 みどり	釣 一博 藤下 貴雄
顧問 県立学校長会議 議長	會田 勉	
高P連相談役	蘇武 和成 高橋 正広	石神 貴子
地区協議会会長校 校長	鍛代 千鶴 (横浜北) 相川 修一 (横浜南) 後藤 昌英 (横 三) 大沢 利郎 (平 秦) 野中 幹子 (県 央)	蘇武 和成 (横浜中) 大熊 敬一 (川 崎) 波呂 房江 (湘 鎌) 丹野 栄一 (県 西) 佐藤 和彦 (相模原)
委 員	石井 宏幸 (会 計) 岩澤のえみ (総 務) 橋本 愛 (総 務) 桃井 貴裕 (監 事) 佐藤 元信 (横浜北) 森 かおり (横浜南) 土谷 希望 (横 三) 小島 正人 (平 秦) 有馬 精一 (県 央)	鈴木 博之 (会 計) 町田ひとみ (総 務) 菊地 朋美 (監 事) 松浦 典子 (横浜中) 香取 将哉 (川 崎) 宮城 武広 (湘 鎌) 府川 健一 (県 西) 藤本 渉 (相模原)

大 会 来 賓

(敬称略)

神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
	生涯学習課長	秋山 直樹
公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部	支部長	井藤 直美
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会	理事長	中野真衣子
	常務理事	吉川 亮
	常務理事	上前 悟
	常務理事	米山 賢
	事務局長	田村 丈晴
神奈川県PTA協議会	会 長	太田 正信
横浜市PTA連絡協議会	会 長	松本 雅威
川崎市PTA連絡協議会	会 長	宮下 大志
相模原市PTA連絡協議会	会 長	松本 公美
茨城県高等学校PTA連合会	会 長	櫻井登志子

広報紙コンクール審査委員

(敬称略)

神奈川新聞社統合編集局	次長 兼 編成部長	佐藤 英仁(審査委員長)
神奈川県教育委員会生涯学習課	主事兼社会教育担当	佐野 誠
神奈川県立学校長会議	高P連相談役	高橋 正広
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会	常務理事	上前 悟
神奈川県立高等学校PTA連合会	副会長	釣 一博

◇第63回 県大会表彰者名簿◇

① 県知事感謝状 (※役員・理事として3年以上在任され令和6年度で退任された方)

表彰者名	役 職
角 田 徹	前高P連副会長
小 林 義 和	前高P連副会長
植 村 哲 哉	前高P連副会長

② 高P連会長感謝状（個人） (※令和6年度で退任された役員・理事)

表彰者名	役 職	表彰者名	役 職
角 田 徹	前高P連副会長	明 野 朝 子	前高P連理事
小 林 義 和	前高P連副会長	岡 本 房 緒	前高P連理事
植 村 哲 哉	前高P連副会長	小 西 恵 子	前高P連理事
篠 原 香 織	前高P連理事	小 松 崎 菊 代	前高P連理事
石 川 美 和	前高P連理事	西 森 憲 一	前高P連理事

③ 高P連会長表彰（団体） (※令和6年度理事校)

表 彰 団 体 名			
神 奈 川 県 立	神 奈 川 総 合	高 等 学 校	パ ー ト ナ ー ズ
神 奈 川 県 立	横 浜 桜 陽	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	横 浜 氷 取 沢	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	麻 生 総 合	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	逗 子 葉 山	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	茅 ヶ 崎 北 陵	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	平 塚 農 商	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	小 田 原 東	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	大 和 西	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	神 奈 川 総 合 産 業	高 等 学 校	サ ポ ー タ ー ズ

◆広報紙コンクール◆

第 49 回広報紙コンクール

第 9 回広報紙「表紙」コンクール

第49回 神奈川県立高等学校PTA連合会広報紙コンクール募集要項

- 1 趣 旨 神奈川県立高等学校PTA連合会に所属する県立学校および中等教育学校のPTAが発行する広報紙作品を広く募集し、優秀作品を表彰することによりPTA広報活動の活性化を促進し、PTA活動の一助とすることを目的とします。
- 2 主 催 神奈川県立高等学校PTA連合会
後 援 神奈川県教育委員会
株式会社神奈川新聞社
協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
- 3 応募要領
 - ① 対象作品：各校PTAで発行される広報紙で、令和6年10月18日から令和7年10月17日までに発行された広報紙一点とします。PTAが発行したもので、手書き・手作りを含み、発行方法、印刷方法や版型については、特に規定しません。
 - ② 応募期間：令和7年9月16日（火）～10月20日（月）必着
 - ③ 送付部数：審査対象の広報紙 12部（Web発行の場合は、印刷したものを提出すること）
 - ④ 送り先：〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル9F
神奈川県立高等学校PTA連合会事務局 宛
- 4 審査委員会 審査については、審査委員会を構成して審査に当たります。
審査委員会は、株式会社神奈川新聞社、神奈川県教育委員会、一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会、神奈川県立高等学校PTA連合会で構成いたします。
- 5 審査項目
 - ① PTA広報紙として必要な情報を伝えると同時に、考察や提案をまじえた紙面づくりができています。
 - ② 企画力を感じる。
 - ③ 写真・レイアウト・見出しにデザイン性やインパクトが感じられる。
 - ④ 広報紙として学校の雰囲気や魅力を十分伝えている。上記の審査項目に基づき、PTA広報紙の持つ目的・役割・記事・編集・レイアウト・見出し・文章などを総合的に審査いたします。
- 6 審査委員会 令和7年11月8日（土）
- 7 表 彰 最優秀賞：1校
優 秀 賞：4校
（教育委員会教育長賞1校 神奈川新聞社賞1校 安全振興会賞1校
神奈川県立高等学校PTA連合会校長賞 1校）
写 真 賞：1校
企 画 賞：1校
編 集 賞：1校
安全振興会写真賞：1校
奨 励 賞：5校
- 8 表 彰 式 日 時 令和7年11月29日（土）
会 場 伊勢原市民文化会館

第9回 神奈川県立高等学校PTA連合会広報紙「表紙」コンクール募集要項

- 1 趣 旨 神奈川県立高等学校PTA連合会に所属する県立学校および中等教育学校のPTAが発行する広報紙作品を広く募集し、優秀作品を表彰することによりPTA広報活動の活性化を促進し、PTA活動の一助とすることを目的とします。
- 2 主 催 神奈川県立高等学校PTA連合会
後 援 神奈川県教育委員会
株式会社神奈川新聞社
協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
- 3 応募要領
 - ① 対象作品：各校PTAで発行される広報紙で、令和6年10月18日から令和7年10月17日までに発行された広報紙一点とします。PTAが発行したもので、手書き、手作りを含み発行方法、印刷方法や版型については、特に規定しません。
 - ② 応募期間：令和7年9月16日（火）～10月20日（月）必着
 - ③ 送付部数：審査対象の広報紙 1部（Web発行の場合は、表紙をjpeg形式にしてメール添付）
（対象作品期間内であれば、広報紙コンクールに応募した同じ号でなくてもよい）
 - ④ 送 り 先：〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル9F
神奈川県立高等学校PTA連合会事務局 宛
※メールの場合：kana.koupren@kanagawa-koupren.org ヘメール添付
- 4 審査方法 神奈川県立高等学校PTA連合会理事会（11月8日（土）開催）にて審査
※審査員：役員12名・各地区協議会理事10名
- 5 表 彰 最優秀賞：1校、優秀賞：2校
- 6 表彰式 日 時 令和7年11月29日（土）
会 場 伊勢原市民文化会館

令和7年度 第49回広報紙コンクール表彰校

※同賞複数の場合、50音順

賞	校名
最優秀賞（1校）	七里ガ浜高等学校PTA
優秀賞（4校）	
神奈川新聞社賞	神奈川総合高等学校パートナーズ
神奈川県教育委員会教育長賞	多摩高等学校PTA
神奈川県立高等学校PTA連合会校長賞	大磯高等学校PTA
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会賞	元石川高等学校PTA
安全振興会写真賞（1校）	市ヶ尾高等学校PTA
写真賞（1校）	湘南高等学校PTA
企画賞（1校）	相模原弥栄高等学校PTA
編集賞（1校）	座間高等学校PTA
奨励賞（5校）	川崎高等学校PTA
	港北高等学校PTA
	平塚農商高等学校PTA
	向の岡工業高等学校PTA
	横浜翠嵐高等学校PTA

令和7年度 第9回広報紙「表紙」コンクール表彰校

※同賞複数の場合、50音順

賞	校名
最優秀賞（1校）	神奈川工業高等学校PTA
優秀賞（2校）	荏田高等学校PTA
	中央農業高等学校PTA

歴代最優秀賞受賞校（過去15年）

回数	年度	受賞校
48	令和6年度	市ヶ尾高等学校
47	令和5年度	神奈川総合高等学校
46	令和4年度	生田東高等学校
45	令和3年度	七里ガ浜高等学校
44	令和2年度	平塚中等教育学校
43	令和元年度	七里ガ浜高等学校
42	平成30年度	大船高等学校
41	平成29年度	秦野高等学校
40	平成28年度	大船高等学校
39	平成27年度	横須賀高等学校
38	平成26年度	横須賀高等学校
37	平成25年度	川崎高等学校
36	平成24年度	希望ヶ丘高等学校
35	平成23年度	横須賀高等学校
34	平成22年度	多摩高等学校

◆講演・PTA発表◆

講 演

活動事例発表 1

活動事例発表 2

【 講演講師 紹介 】

演 題：『すべてを否定しない生き方

～何事も前向きに考える方法論～ 』

講 師：^{とうぎ}東儀 ^{ひでき}秀樹 氏

雅楽師

1959 年東京生まれ。

東儀家は、奈良時代から今日まで 1300 年間雅楽を世襲してきた
楽家（雅楽専門の家系）。

父の仕事の関係で幼少期を海外で過ごし、あらゆるジャンルの
音楽を吸収しながら成長した。宮内庁楽部在籍中は、宮中儀式や
皇居において行われる雅楽演奏会などに出演するほか、海外での
公演にも参加し、日本の伝統文化の紹介と国際親善の役割の一翼を担ってきた。

1996 年アルバム「東儀秀樹」でデビュー。日本レコード大賞企画賞、ゴールドディスク大賞 純邦
楽・アルバム・オブ・ザ・イヤー、芸術選奨文部科学大臣新人賞等、受賞歴多数。

テレビのバラエティ番組に出演するなど若者からの注目も集め、精力的に活動している。



※転載禁止

趣味：クルマ、バイク、乗馬、クレー射撃、スキューバダイビング、スキー、スケート、ギター、ピ
アノ、時計、写真、イラスト、陶芸、漆工芸、民族楽器コレクション、時計コレクション、ミニカー
コレクション、マジックなど

■これまでの主なテレビ出演

NHK BS「美の壺」（テーマ：天地空の調べ 和楽器）

E テレ「旅するためのイタリア語」

フジテレビ「ワイドナショー」、「千鳥のクセがスゴいネタ GP」「ほかほか」

日本テレビ「ヒルナンデス」、「有吉ゼミ」、「踊るさんま御殿！」「遠くへ行きたい」

BS 日テレ「おぎやはぎの愛車遍歴」、「バカリズムの大人のたしなみズム」

（テーマ：クラシックカー）

BS 朝日「カーグラフィック TV」ほか多数

■主な出版物

『東儀家の子育て 才能があふれ出す 35 の理由』講談社（2015 年）

『すべてを否定しない生き方』KKロングセラーズ（2007 年）

『雅楽のこころ 音楽のちから』大正大学出版会（2005 年）

『東儀秀樹の永遠のおもちゃ箱』PHP 研究所（2003 年）

『雅楽：僕の好奇心』集英社新書（2000 年） など



多くのメディア等でご活躍されている東儀秀樹氏に、雅楽の楽器の紹介や演奏を交
えながらご自身の子育てやご子息との関わりの中でご経験されたことをお話してい
だきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

活動事例発表 1 神奈川県立希望ヶ丘高等学校 P T A

発表テーマ

「改編を通して学びながら、

子どもたちのためにより良い P T Aをめざして」

→ 25 ページに資料があります。

<メモ>

活動事例発表 2 神奈川県立市ヶ尾高等学校 P T A

発表テーマ

「持続的発展可能な P T A 活動への取り組み」

→ 14～18 ページに資料があります。

<メモ>

◆地区協議会報告◆

横浜北地区

横浜中地区

横浜南地区

川崎地区

横須賀三浦地区

湘南鎌倉地区

平塚秦野地区

県西地区

県央地区

相模原地区

◆専門教育部会報告◆

(すべての報告書は提出していただいたものをそのまま掲載しています。)

横浜北地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横浜北地区協議会
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和7年10月11日（土） 13:00～16:10

2 会 場 神奈川県立白山高等学校 視聴覚室

3 参加者数 119 名

4 日 程（次第）

（1）開 会 式

- | | | | |
|------------|----------------|-----------------|-------|
| ①開会の言葉 | 横浜北地区協議会副会長 | 横浜翠嵐高等学校 PTA 会長 | 西口かおり |
| ②主催者挨拶 | 横浜北地区協議会会長 | 白山高等学校 PTA 会長 | 佐藤元信 |
| ③地区学校長会議挨拶 | 学校長会議横浜北地区副会長 | 新栄高等学校長 | 吉田悦子 |
| ④来賓紹介及び挨拶 | 神奈川県立高等学校安全振興会 | 常務理事 | 米山賢 様 |

（2）活動事例発表

①事例発表Ⅰ 市が尾高等学校

②事例発表Ⅱ 川和高等学校

③質疑応答

④助言者講評 横浜北地区協議会副会長校 横浜翠嵐高等学校長 師岡健一

（3）休 憩

（4）講 演	講師	一般社団法人 Japan Holistic Fellows	代表理事	串田大我 様
			理事	阿部佑介 様
演 題	デカとワルの「こころと栄養の話」			
質疑応答				

（5）閉 会 式

①閉会の言葉 横浜北地区協議会会長 白山高等学校 PTA 会長 佐藤元信

タイトル 「事例発表 I」

講演者 佐々木得人、立川美也子、黒滝繭子、神囿明美、松本恵子、井高美紀、夏井智美

学校名 神奈川県立市ケ尾高等学校 P T A

研究テーマ 「持続的発展可能な PTA 活動への取り組み」

1. 市ケ尾高校について

市ケ尾高校は東急田園都市線の市が尾駅から徒歩約 18 分の田畑が多く残る鶴見川沿いにあります。



設立は 1974 年、川和高校で開校準備が行われ、その後現在の地に移転し、2023 年には創立 50 周年を迎えることができました。生徒数 1,000 人を超える、県内でも有数の大規模県立高の 1 つです。



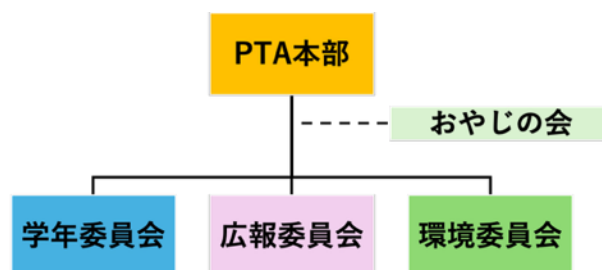
部活動の加入率は 90%ほどと非常に盛んで、文化部・運動部ともにレベルが高く、最近では書道部、ダンス部、軽音部、陸上競技部が全国大会にも出場するなど文武両道に励んでいるのが特徴と言えるでしょう。なかでも軽音部は全国大会の Teens Rock 2025 GP ファイナルでグランプリを受賞し、日本最大級の音楽フェスであるロック・イン・ジャパン フェスティバル 2025 に出演を果たしました。



そして、これまでの卒業生が残していった伝統の合言葉が「市高最高!」。今でもこの合言葉は受け継がれています。

2. 市ケ尾高校 PTA について

組織体制は、PTA 本部を中心に、学年、広報、環境の各委員会がそれぞれ活動しており、PTA 傘下の下部組織として、おやじの会があります。



2.1 本部

役員会、運営委員会などの開催に加えて、会の終わった後には茶話会や懇談会なども企画しています。文化祭の白鷺祭模擬店や冬の球技大会における炊き出しの企画では、お手伝いをしてもらえる一般保護者を Google Form を活用して募集しています。本部ではみんな仲良く、ワイがガヤで楽しく PTA の企画・運営をしています。



2.2 学年委員会

卒業生へのコサージュの用意や、保護者向けの手作り教室などに加え、本部主催の模擬店や炊き出しにも協力し、PTA 活動を仲良く楽しく実施しています。



2.3 広報委員会

保護者目線で学校イベントを楽しく取材し、情



報の発信は広報誌を通して行っています。広報誌は、いつも盛り沢山の中身の濃い内容で、神奈川県広報紙コンクールでは2年連続入賞を果たしました。昨年度は、なんと最優秀賞を受賞することができました。



2.4 環境委員会

ガーデニング好きな保護者の集まりです。卒業式や入学式に合わせて、登校するみんなに楽しんでもらえるよう、お花を植えています。また、クリスマスシーズンになると、花壇やポニーの丘と呼ばれる中庭の木に飾りつけをして、みんなに楽しんでもらえるようにしています。



2.5 おやじの会



おやじの会の活動は、これまでコロナ禍の影響で大幅に制約されてきました。模擬店出店や餅つき大会を数年、実施することができませんでした。しかし、昨年度に模擬店のうどん屋、今年に入ってから餅つき大会を開催でき、コロナ禍前のおやじの会の活動をようやく完全復活させることができました。餅つき大会では慣れない手つきで杵を持って臼の餅をつく生徒の様子が見られました。



3. 持続的発展可能な PTA 活動を目指した取り組み

市ケ尾高校 PTA では、地域との連携を強化し、保護者と学校の協力を推進しています。活動の持続的発展のために、活動の透明性や参加しやすさを重視し、多様な意見を取り入れる工夫も実施中です。

PTA ロゴマークについて、昨年度の 2024 年度はコロナ禍後からの活動が復活できた最初の年でした。そのため、これまでの途切れた活動の再立ち上げを誓って、Rise up からつけられました。今年度のロゴマークでは、その活動がさらに輝ける状態を目指そう、ということからつけられました。



コロナ禍からのPTA活動の復活を誓って！さらなる輝きのあるPTA活動を目指して！

3.1 取り組みその1

さて、その取り組みの1つとして、従来の古いイメージである用語を刷新していこうという試みです。「PTA」という用語には、古いイメージが強く、小・中学校の経験から、この用語を見たり聞いたりするとアレルギーになる保護者も少なくありません。

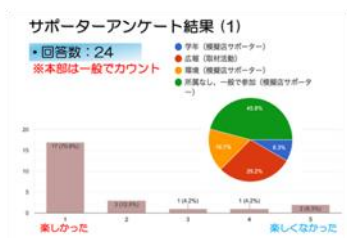
そこで、みんなに分かりやすく、親しみやすいネーミングにしていこうと考え、PTA 本部は市高生サポーターズクラブ、学年委員会は保護者イベント企画委員会、広報委員会はアオハル広報局、環境委員会は、環境（ガーデニング）委員会と、少しでも活動参加への心理的なハードルを下げられるようにと工夫を加えてつけました。ただし、これがベストなネーミングということではなく、時代の変化に合わせて、もっと親しんでもらえるようないいネーミングがあれば変えていくことも必要だと考えます。



3.2 取り組みその2

取り組みの2つ目は、活動を行ったら、必ずその活動の振り返りを実施します。良かったところは継続、良くなかったところは改善点を見つけ、次の計画に盛り込んで、より良い運営にするためのPDCAサイクル回すことを念頭においています。

来場者や活動に参加してくれた人にマチコミやPTA ホームページを活用して、Google Form を使ってアンケートを実施し、その結果を振り返りとしてまとめています。



サポーターアンケート結果 (2)

参加して良かった点は？ 生成AI による要約 (詳細は付録参照)

- ・参加の楽しさ: 昨年に続き2度目の参加で、物がある楽しさを感じた。
- ・生徒たちの様子: 生徒たちが楽しそうに笑い物をしている姿が可愛らしく、一生懸命準備している様子を間近で見られた。
- ・交流の機会: いろんな人と交流でき、青春のおすそ分けもらった感じがした。
- ・サポーターの役割: 呼び込みと会計の役割分担がきっちりしていて、行割ができてスムーズに対応できた。
- ・文化祭の雰囲気: 文化祭の雰囲気を感じられ、ステージや展示物、各クラスの近しい物を楽しめた。
- ・学校の雰囲気: 学校の雰囲気やPTA、委員会の活動内容を知ることができた。
- ・サポーター体験: 冷房用に冷凍ペットボトルを持ってきてもらうなど、サポーター体制が良かった。
- ・後援者の感謝: 準備から当日対応までされたが、後援で疲れが吹き飛んだ。
- ・市高生の良さ: 市高生の優しさや丁寧な対応、調理の良さを再確認できた。

最近では、生成 AI を活用してまとめた結果から改善点を抽出し、今後の対策の検討まで実施できるようにしています。

このような活動方針のもと、昨年、冬の名物行事の球技大会では、これまでにない大規模な炊き出し提供を実施しました。

市高史上最大の豚汁大作戦

おかわりOKの
2,400食で計画

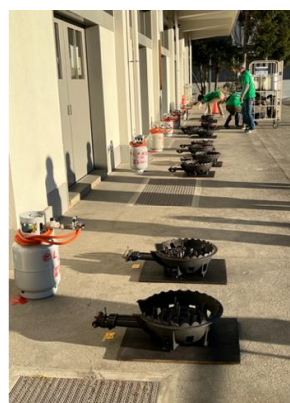
基準レシピ	食材	必要量	
		計量法	または
肉	豚肉	56 kg	56 kg
	長ねぎ	360 本	47 kg
	大根	60 kg	60 kg
	人参	48 kg	48 kg
	ごぼう (冷凍)	360 本	50 kg
その他	豆芋 (冷凍)	1,200 個	40 kg
	油揚げ	600 枚	大粒なめ
	調味料	みそ	2,400 大
		七味	600 小



名付けて「市高史上最大の豚汁大作戦!」。全員おかわりできる2,400食を計画し提供しました。実は、これ以前の年の球技大会の炊き出しではコロナ禍の影響もあり、キッチンカーだったり、

レトルト食品の提供だったり、炊き出しに協力してもらえる保護者も限られてしまい、多くの保護者が学校に来て生徒の様子をみることや保護者同士が交流できる機会が取れませんでした。また、コロナ禍前のとん汁提供のノウハウも途切れており、これまで2,400食も提供したことがなく、机上の検討のみでした。まさに未知への挑戦でした。本部一同、綿密に実行計画を練りましたが、いざ実際の実行ではどうなるか、フタを開けてみるまでは分かりません。実行あるのみ、でした。

さて、食材の事前調達から開始です。2,400食分なので集めるのも、下準備も大変です。そして実施当日、天気も良く早朝より作戦開始です。調理班と鍋班に分かれ、炊き出し作業を始めました。コンロと鍋は、12セット。参加者で手際よく調理が行われていきました。



調理を開始してから約2時間後の午前11時にとん汁を提供開始。瞬く間に、生徒たちの大行列ができました。事前におかわり自由と伝えていたこともあり、中には5杯、6杯と平らげる子どもの姿もあり、大盛況のうちに作戦を完遂することができました。

さてこのような活動ですが、もちろん実施後

の振り返り評価は欠かせません。

来場してくれた生徒にはポストイットで、参加した保護者には Google Form でアンケートを実施しました。今回の大作戦は、生徒にも保護者にも非常に満足度の高い活動だったようでした。もちろん、反省点もあり、次回以降にはこの反省点から改善事項を盛り込んだ、より良い運営に繋げる方針です。

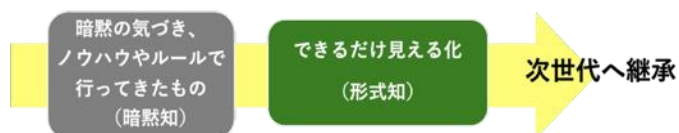


4. 今後の展望

今後も持続的発展可能な PTA 活動を目指すため保護者が活動に参加し易く、親しんでもらえる工夫は欠かせません。また、一人でも多くの保護者に参加してもらえる仕組みも継続して検討し

ていきます。持続的発展可能な PTA 活動というテーマに沿うと一番重要な課題は保護者として最長でも 3 年しか活動に関われない（もっと長い人もいますが、それは少数派）という制約条件がある中で、いかに活動のノウハウを後輩保護者に継承していくか、です。そのためには、これまで蓄積されてきた暗黙の気づき、ノウハウやルールなど（暗黙知）は、できるだけ見える（形式知）化していくことだと考えます。これは、引き継ぎでとても重要なことでしょう。

PDCA サイクルを回すだけでなく、短い期間の PTA 活動で得られた気づきを次の世代へ継承できるようにするため、データ化して誰にでも見えるようにしていくことだと思います。



ところで、市ケ尾高校では体育館が耐震工事中となってしまう、来年の卒業式と入学式が校内で実施されません。新入生保護者への PTA 活動をどうやってアピールするかが課題で現在、検討中です。

タイトル 「事例発表Ⅱ」

講演者 谷口和広 今関みゆき（演奏 赤阪茂 山崎貞 田村亮）

学校名 神奈川県立川和高等学校 P T A

講演テーマ「背中の会（おやじの会）演奏と文化祭の様子の特典メンタリー」

1. はじめに

川和高校には、PTA 活動と同様、日々活発に活動する団体「背中の会」があります。本発表では、本校において「背中の会」がどのような活動をしているのか、に焦点を当て皆さんに紹介しました。

2. 「背中の会」とは

川和高校では、生徒たちは「高い次元の文武両道」を合言葉として、日々勉学に、部活動にと励んでいます。一方で、実はそんな生徒たちに負けじと励んでいるおやじたちがいます。その名も「背中の会」。おやじたちの背中を子どもたちに見てもらおうという趣旨で付けられたこの名称ですが、その名に恥じないよう、必要があれば学校でお手伝いをするのはもちろんのこと、本人たちも文武両道を目指し、部活動にも励んでいます。

背中の会は、いわゆるおやじの会ですが、入学式で希望者を募り、誰でも入ることができます。活動は非常に盛んであり、現役メンバーだけで100名以上の大所帯です。これまでも、学校の中の壁塗りやどぶさらい、花壇整備をボランティアと協力してやるなど、生徒たちの役に立てることはないかと日々模索し、貢献してきています。



PTA 活動をしている際にも、どうしても力仕事や技術が必要なものなど、男手が欲しいな、と思うことがあります。そんな時、2つ返事で協力をしてもらえるので、PTA としてもとても助かっています。それだけでなく、背中の会の活動の特徴は、何と言っても数ある部活動と、自主的に行うチヂミ販売や餅振る舞いではないでしょうか。



参考：花壇ボランティアと共同で行う花壇整備



参考：花壇周りの清掃

そして、現役保護者だけで集まるだけではなく、「背中の会」は、卒業後も「おなかの会」(OB)として活動し、その繋がりは続いていきます。

このように、「背中の会」は学校行事や部活動への参加で得るコミュニケーションを通して、人の繋がりを更に豊かにすることを目的としており、現代の希薄な対人関係とは程遠いその関係性を子どもたちにも見せることで、子どもたちの人間性も豊かになるのでは、と考え活動しています。



参考：餅振る舞い（2025年1月）

3. 背中の会軽音部演奏

当日は、そんな「背中の会」の楽しい活気溢れる雰囲気を横浜北地区の皆さんにお伝えできれば、と、数ある部活の中から軽音部ボックスのメンバーを迎え、生演奏を披露してもらいました。



披露してくれた曲は徳永英明さんの「夢を信じて」。ボックスの活動は月1回程度だそうですが、楽しみながらも一生懸命演奏している姿が印象的でした。当日はわずかな機材トラブルがありましたが、会場の皆さんも拍手で盛り上げて下さいました。

「背中の会」の部活動は、その種類も豊富で、テニス、サッカー、ランニング他、各運動系の部はもちろん、当日発表してくれた軽音部の他にも、写真、キャンプのような部、散歩してお酒を楽しむ部、主に地元横浜のベ이스ターズを応援する部まで存在しており、皆、思い思いに楽しく活動しているのが特徴です。

4. 文化祭チヂミ販売ドキュメンタリー

演奏の後は、先日開催した文化祭でのオヤジたちのチヂミ販売を企画スタートから文化祭当日の様子まで、ドキュメンタリー動画にまとめたものをお見せしました。文化祭でのチヂミ販売はコロナ禍で一度停止せざるを得ませんでしたが、一昨年よりまた復活し、生徒たちにも人気で、喜んでもらっています。インタビューを受けてくれた生徒たちの生き生きとした笑顔が印象的でした。



5. おわりに

川和高校では、PTA だけでなく、このように「背中の会」のメンバーも、皆、力を合わせて楽しく活動しています。当日はその活動に焦点を当て紹介させてもらいましたが、その楽しい活気あふれる雰囲気が少しでも伝わっていたら幸いです。

これからも PTA、背中の会共々、子どもたちの良いお手本になれるよう、楽しんで活動していきたいと思います。

タイトル 講評

助言者 横浜翠嵐高等学校長 師岡 健一

市ケ尾高校の皆さん、川和高校の皆さん提案校としての発表、ありがとうございました。非常に熱意のある、そしてエネルギッシュな動感を交えた発表だったと思います。

横浜北地区には、様々な特色やミッションを持っている学校がありますが、今日発表していただいた市ケ尾高校と川和高校は、どちらも非常に部活動が盛んで文武両道を特色としている学校だと感じています。

まず、市ケ尾高校ですが、タイトルとして「持続的発展可能なPTA活動の取り組み」、ということで発表していただきました。この内容は、どの学校のPTAにとっても共通のテーマであり、いかに持続させていくか、また、その中で発展させていくか、そのためにどんな取り組みをしたらいいのか、ということについて、様々なヒントを与えてもらえました。

イメージアップのロゴマークや、それぞれの委員会のネーミングなど、心理的なハードルを下げるために親しみやすいネーミングをつけていくことは、非常に興味深い取り組みです。また、コロナ禍で止まっていた親父の会が昨年度から復活して、行事での2,400食の豚汁提供に果敢にチャレンジしていることも紹介されましたが、PDCAをしっかりと回しながら、次につなげていく取り組みも素晴らしいと思いました。

こういった活動を持続可能にするために、見える化をどんどん進めていくという話がありました。3年間で活動が終わってしまう方もいる中で、いかに次の代の人にスムーズに引き継いでいくのか、そのための様々な取り組みを行っているということで、大変わかりやすかったと思います。ぜひ他の学校のPTAの方も参考にさせていただきたいと思います。

次に川和高校ですが、川和高校の発表は「背中の会」、つまり「親父の会」の視点からという

ところでの発表で、一味違った発表になっていたと思います。これだけ多くの人が学校、生徒を支えてくれているということが大きなことだと思います。「ボックス」の皆さんの演奏も有難うございました。

今学校現場というのは働き方改革が進んでいます。ただ、働き方改革といっても勤務時間の縮減というだけではなくて、働きやすさと働き甲斐の両立が、とても大事だと言われている、皆様もウェルビーイングという言葉が最近よく聞くことがあると思いますが、心身の健康と幸福感というようなことと関係ある言葉であり、PTAの活動も同じで、PTAの活動に参加している皆さんが、活動のしやすい状態、そして、活動する楽しさや活動するやりがいがある、それがとても大事なことだと思います。

今日の市ケ尾高校と川和高校の発表からは、それが本当によく伝わってきていて、参加している皆さんが本当に楽しんでやっていると感じました。皆さん方が楽しんでやっていることが、生徒のためになること、それを目指してどの学校でも多くの方がPTA活動を行っているのではないかと思います。

ぜひ今日の2校の発表の中で、それぞれの学校の特色や状況というものは違いますが、こういうところは取入れられるかな、こんなところはちょっと面白いかな、というヒントが得られたら大変良いことであると思います。

改めまして、市ケ尾高校と川和高校の皆様、本日は発表ありがとうございました。

横浜中地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横浜中地区協議会

後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日時 令和7年10月18日（土） 13:00～16:00

2 会場 男女共同参画センター横浜 ホール

3 参加者人数 158名

4 日程（次第）

（1）開会式

- ① 開会のことば
- ② 主催者挨拶
- ③ 横浜中地区学校長会議会長挨拶
- ④ 来賓紹介および挨拶

（2）講演

講師 助産師 高野 しのぶ 氏

演題 「家庭で伝えていく命の話～世界の性教育のスタンダード包括的性教育とは～」
質疑応答

（3）活動事例発表

- ① 事例発表Ⅰ
- ② 事例発表Ⅱ
- ③ 質疑応答
- ④ 助言者講評

（4）閉会式

- ① 閉会のことば

タイトル：【研究発表Ⅰまたは研究発表Ⅱまたは講演】

「時代に合わせた PTA 活動」

学校名：神奈川県立横浜緑園高等学校

テーマ：「保護者が子どもと関わるきっかけ作り」

学校概要

平成29年4月1日開校。単位制による全日制普通科（男女共学） 大自然に囲まれ校舎からは富士山が眺望でき、春は桜が、初夏には新緑や鳥のさえずりが秋には紅葉が周囲を彩っています。目標実現可能とする生徒の学力の育成と豊かな人間性、社会的・職業的自立をめざし、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組む個性に合った進路選択のより高いレベルでの実現を目指し、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組んでおります。

PTA 運営について

コロナ禍明けの活動から4年かけて見直してきました。新たに作り上げていく中で、生徒、保護者、学校とさらに連携を図るだけではなく、「スマート活動し家族時間を増やす」をテーマに掲げてきました。コロナ禍前は一日近く活動をしていた所を、半日→1時間以内に活動量を減らし、クオリティを上げ家族時間を増やすことができました。

入学式が終わった週には初めてのイベントとして「竹林整備」を生徒、保護者、先生と一緒に何日かにわけて行われます。「たけのこ掘り」を一緒にでき春のお土産としてお持ち帰りいただいています。体育祭、緑園祭の学校の行事だけではなく PTA 行事にも参加していただき子どもとの関わりを増やす活動をしています。

委員会活動

広報委員会主な活動内容

広報紙「樹」の制作にあたり、みんなで話し合いながら編集を進めています。

大きなイベントでは緑園祭や体育祭の様子を間近で感じながら撮影取材します。

スポーツ大会では、生徒の生き生きとしたショットをねらって撮影をしています。

環境委員会 主な活動内容

月に1回、1時間程度 PTA の花壇の草取りや花植えをしています。

文化祭では「フラワーボールペン作り」のワークショップを開催しました。

学校内外からの学生さんや親子連れの方にも体験していただき大盛況でした。

クリスマスイルミネーションや入学式・卒業式の花道作りもしています。

年次・成人委員会 主な活動内容

保護者の方楽しんでいただく機会を企画、運営をしています。

分解祭では「練り香水作り」のワークショップを開催。生涯学習講座では学校内で「陶芸教室」を開催しました。

今後も生徒、保護者、学校の橋渡しをしてまいります。

タイトル：【PTA 組織改編～子どもたちのための持続可能な PTA をめざして～】

学校名：神奈川県立希望ヶ丘高等学校全日制 PTA

テーマ：改編を通して学びながら、子どもたちのためにより良い PTA をめざして

1. 学校紹介

自由と自立自製の精神のもと、自ら考え行動し、学校生活を全力で楽しむ生徒たちの様子を生徒作成の動画で紹介します。

2. PTA 改編に至った背景（動機と課題）

私たちは、PTA 活動に対して長年「本当にこれで良いのだろうか」「何のためにやっているのだろうか」という疑問や悩みを抱えていました。特に、PTA 会費の使い方の見直しがなかなか進まないという課題がありました。昨年の中地区大会での他校の発表に感銘を受け、この状況を打開することを決意いたしました。子どもたちのための持続可能な PTA を確立するためには、活動の根本から見直す抜本的な改革が必要だと判断したのです。

3. 新しい組織体制への移行

改革のポイントは、①活動が形だけになっていないか？目的は？②会費は生徒や会員に行き渡っているか？③子どもたちのためにどんなことができそうか？です。目的や活動に合わせた3つの委員会に改編することとしました。

従来の組織		改編案	
委員会	活動	目的（活動）	委員会
会員委員会	バスツアー、芸術鑑賞など	保護者と生徒・学校をつなぐ（懇談会、講演会の開催など）	学年委員会
学級委員会	学級懇談会、ガーデニングなど	学校環境を整える（花壇の整備、校内外の清掃など）	環境委員会
広報委員会	広報紙発行	学校やPTAの活動を会員に知らせる（柔軟な取材や発信）	広報委員会

臨時書面総会では改編の承認をいただきましたが、このプロセスの中で、改編の意図や詳細について、よりきめ細かな情報提供が課題として残りました。

4. 持続可能な PTA のための新しい取り組み

改編後の活動を定着させるため、以下の4つの

柱で具体的な取り組みを導入しました。

- ・選出の改革:委員選出を立候補制のみとし、くじ引きを廃止しました。「やりたい人が無理なく関わる」仕組みを確立しています。
- ・連携体制の構築:本部・学校、本部役員と各担当委員会が直接連携し、風通しの良い組織づくりを進めています。
- ・費用の見直し:次年度からは、他校で徴収されていないPTAへの入会金を徴収しない見込みです。
- ・情報共有の強化:研修大会への積極的な参加や、マチコミを通じた活動内容の発行により、情報共有を密にしています。

5. 具体的な活動成果

- ・本部:陸上競技大会などで冷たい飲料を提供し、熱中症対策を行いました。記念祭では昨年の合唱祭の上映ブースを運営し、保護者から好評をいただきました。合唱祭のトロフィー寄贈も行いました。
- ・学年委員会:進路説明会後の懇談会を開催し、QRコードによるアンケート導入で業務の効率化に成功しました。講演会も企画中です。
- ・環境委員会:ガーデニング活動(花壇整備)やボランティア活動(清掃)を通じて、校内外の環境づくりや活動後の茶話会を行いました。
- ・広報委員会:広報紙の電子化(紙媒体とマチコミ配信)に取り組んでいます。

6. まとめと今後の展望

今回の改編は困難を伴いましたが、多くの理解を得て、今までできなかった生徒サポートが実現できました。組織全体に「子どもたちのために何ができるか？」という共通認識が生まれたことが最大の成果であり、組織はポジティブな方向に変化しています。私たちはこの改編を通して多くの学びを得ました。今後も子どもたちのためのより良いPTA活動を継続的に模索してまいります。

令和7年度神奈川県立高等学校PTA連合会 横浜南地区協議会大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横浜南地区協議会
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和7年10月18日(土) 13時30分～16時05分

2 会 場 神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)

3 日 程(次第)

(1) 開 会 式 13時30分～13時50分

①開会のことば

柏陽高等学校PTA会長

中西 亮

②主催者あいさつ

横浜南地区協議会会長

横浜栄高等学校PTA会長

森 かおり

横浜南地区協議会副会長

横浜栄高等学校長

相川 修一

③来賓あいさつ

一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会 常務理事 吉川 亮 氏

(2) 研究発表 13時50分～14時10分

テーマ「横浜立野高校の歴史と今～来年90周年を迎えて～」

横浜立野高等学校PTA

助言者講評

釜利谷高等学校校長

金子 博暢

(3) 休 憩 14時10分～14時20分

(4) 講 演 14時20分～16時00分

講 師 齋藤 幸男 氏(元宮城県石巻西高等学校校長・防災士)

演 題 『災害に立ち向かう知恵』

～子どもたちの未来を守るために親ができること～

(5) 閉 会 式 16時00分～16時05分

閉会のことば

釜利谷高等学校PTA会長

中里 崇彦

1. 【あいさつ】

みなさん、こんにちは。横浜立野高校 PTA 運営委員会です。今年度、PTA 会長を務めさせていただいております、岡部と申します。これから「横浜立野高校の歴史と今～来年、90 周年を迎えて～」というテーマで発表をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それではまず、校歌をお聞きください。

2. 【校歌紹介】

（1 番流した後で）こちらは、昨年の「青春かながわ校歌祭」の画像です。同窓生と在校生が、母校の校歌を披露しています。今年度の校歌祭は、まさに本日開催されており、会場は、やまと芸術文化ホールです。

3. 【学校紹介】

学校の外観写真をご覧ください。現在の校舎は、新しくなってからおよそ 10 年が経ちます。明るく開放感があり、とても綺麗な印象です。校内の様子を動画でご案内します。本校は高台に位置しているため、生徒たちは急な坂や階段を上って、毎日通学しています。校舎の周りには緑豊かな中庭が広がり、グラウンドの周囲では、さまざまな部活動が練習に励んでいます。現在、本校には 25 の部活動があります。体育系が 16、文科系が 9 と、どちらも活発に活動しています。続いて、校舎の中に入っていきます。こちらが、生徒たちの出入り口です。下駄箱は各教室の前に設置されているため、この出入り口のスペースは広々としていて、開放感があります。先ほどちらっと映っていたポスターは、9 月に開催された「立野祭」のもので、パンフレットの表紙にも使われました。毎年デザインのテイストが変わるため、これも立野祭の楽しみの一つになっています。校舎は 3 階建てで、今年度は 1 年生が 7 クラス 278 名、2 年生が 6 クラス 235 名、3 年生が 7 クラス 260 名、合計で 773 名の生徒が在籍しています。今回は授業中に撮影を行ったため、生徒のいない静かな校内の様子をご覧ください。ここからは、屋上からの景色をお楽しみください。通常は立ち入ることができない屋上ですが、今回は特別に許可をいただき、撮影しました。正面には海が、裏手には山が見え、自然の豊かさを感じることができます。こちらがグラウンドです。体育祭もここで開催されますが、スペースの都合上、保護者の観覧は難しくなっています。私たち PTA は運営のお手伝いとして参加しており、当日は、生き生きと楽しむ子どもたちの笑顔がとても印象的でした。中庭は、環境委員さんや技能技員さんの手できれいに整えられており、生徒たちのランチスペースとしても親しまれています。

4. 【沿革】

横浜立野高校の歴史をご紹介します。1936 年（昭和 11 年）に、現横浜平沼高校である県立高等女学校に続き横浜第二高等女学校として創立されました。1964 年、現在地の本牧間門に移転されました。2014 年、新校舎が完成し、2016 年、創立 80 周年を迎え、卒業生は 2 万人を超えました。そして来年、横浜立野高校は 90 周年を迎えます。90 周年をむかえるにあたり、実行委員会が発足し動き始めています。

5. 【PTA について】

続いて、横浜立野高校 PTA についてをご紹介します。本校の PTA は、学校・本部・学年委員会・環境委員会・広報委員会・成人委員会で構成されています。運営委員会は、1～2 か月ごと開催しており、情報共有や意見交換の場として活用されています。写真は、年度初めに全体で撮影したものです。本部の活動だけでなく、各委員会の皆さん、そして保護者の方々の協力によって、学校生活がより豊かで充実したものになっています。ここからは、本部と各委員会の皆さんから、日頃の活動をご紹介します。

6. 【本部】

こちらは、運営委員会の様子です。本部は、日頃から学校と各委員会との橋渡しをしたり、運営委員会の開催を担当したりしています。また、立野祭での出店も、他の委員会と協力して行っています。立野祭では、本部のブースにて、おにぎりや唐揚げのセットや、「立野」の焼き印入りどら焼きなどを販売しています。イベントの際には、全員でおそろいの T シャツを着て参加しています。今日も、みなでおそろいの T シャツを着てきました。（T シャツ見せる）

【学年委員会】 【環境委員会】 【広報委員会】 【成人委員会】 （各委員より発表）

7. 【締めあいさつ】

各委員会のご紹介、ありがとうございました。本日の発表を通して、横浜立野高校が、長い歴史の中で地域とともに歩んできたこと、そして PTA の活動が、学校と家庭をつなぐ架け橋となり、生徒たちを応援し続けていることを、あらためて感じました。来年、90 周年という節目を迎えるにあたり、私たち PTA は、これからも学校と連携しながら、生徒たちが、楽しく、そして安心して学べる環境づくりを応援していきたいと考えています。本日は、お忙しい中、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。これで、横浜立野高校の発表を終わります。ありがとうございました。

タイトル 「横浜立野高校の歴史と今～来年 90 周年を迎えて～」

発 表 横浜立野高等学校 P T A

助言者講評 概要

神奈川県立釜利谷高等学校 校長 金子 博暢

改めまして、指名いただきました釜利谷高校校長の金子でございます。今、発表を聞かせていただきまして、すごくいい取り組みについて、聞かせていただいたように思います。90 年の節目を迎えるにあたっての地域との取り組み、それから各委員会がそれぞれ工夫を凝らしながら生徒をバックアップするような体制、それから教育と保護者の架け橋、そして学校と保護者の架け橋になっているというところがすごく印象的でした。すごく細かいところで配慮されている環境委員会のお花について、トイレ清掃では、広報委員会のきめ細かな写真における記録の取り方について、学年委員会の給水における本数を増やしてみたりという工夫だったり、本部の皆さん、整理委員会の皆さんについても同様に少しずつバージョンアップしていくその姿勢がすごくいいなという風に思いました。我々も同様の取り組みをしていますけども、そういった日頃の気づきの中で工夫ができるんだということを改めまして感じましたし、それぞれの学校がそれぞれの環境で違う工夫をしていくことが、子どもたち、それから学校のためになっていくんだということが非常に勉強になりました。来年 90 周年という節目を迎えるに当たって、この取り組みをさらにまとめていきながら、盛大にその 90 周年の節目が行われることをお祝いしまして、講評とさせていただきたいと思います。

第 62 回川崎地区大会

主催 神奈川県立高等学校 PTA 連合会川崎地区協議会
講演 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和 7 年 10 月 23 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30

2 会 場 川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)

3 参加人数 148 名

4 次 第

(1) 開会の言葉 川崎地区協議会副会長

(2) あいさつ

主催者 川崎地区協議会会長

来 賓 神奈川県立高等学校安全振興会理事長

来 賓 県立学校長会議川崎地区会長

(3) 研究発表

1. 生田東高等学校 みんなの「できる」でつながる PTA

2. 百合丘高等学校 百合丘高校が目指す「新しい PTA 活動」

3. 質疑応答

(4) 休憩

(5) 記念講演

講師 NPO 法人 日本防災士会常務理事 山本賢一郎氏

演題 未来の防災人財のつくりかた

～守られる人から守る人へ～

質疑応答

お礼のことば

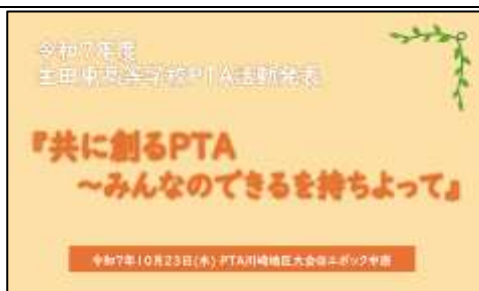
(6) 閉会の言葉 川崎地区協議会副会長

「研究発表Ⅰ」

講演者 P T A会長：村上友子、副会長：阿部絹枝・橋本育子、書記：関山淳子・飯田洋子、会計：唐沢明子・矢澤里美、学年文化部門長：部原江美子、環境交通安全部門 書記：神尾宏美、広報部門長：勝俣三恵子

学校名 神奈川県立生田東高等学校

研究テーマ 「共に創るP T A～みんなのできるをもちよって～」



1 はじめに

①学校概要

生田東高等学校、通称「イクヒ」は、昭和52年に開校し、来年度には創立50周年を迎えます。

「イクヒ」ではICT教育に力を入れており、令和6年度には文部科学省の「DXハイスクール」に採択されました。生徒全員がiPadを携帯し、授業の多くはデジタル教材を活用して進められています。

校舎は生田の丘の上にあり、自然豊かな高台に位置しています。生田駅から学校まで続く急勾配の坂道は、通称「イクヒ坂」と呼ばれ、生徒たちは毎朝この坂を登って元気に登校しています。

②学校行事紹介

《東陵祭》

6月 体育部門



9月 文化部門



2 P T A活動内容について

令和7年度のP T Aは、本部役員7名、学年文化部門12名、環境交通安全部門10名、広報部門6名、合計35名で構成されています。

① P T A全体としての活動

月1回の運営委員会開催のほか、体育祭委や文化祭など、学校行事のお手伝いを中心です。活動の様子を少しご紹介します。

文化祭1日目の朝は、毎年、校長先生をはじめ担当の先生方を交えて決起会が行われます。今年の文化祭では、中谷教頭にイクヒキーホルダーを作成していただき、生徒やP T A役員の間でも大変好評でした。



先生方にご協力いただきながら、役員同士で連携し合い、短時間で密度濃く活動しています。

② P T A本部

本部では、主にP T A本部活動計画や予算案の立案、全体の運営サポート、学校行事や教育活動支援、P T A総会・運営委員会の開催、高P連大会への参加などを担当しています。特に今年心掛けたのは、他校のP T A組織との交流です。埼玉で行われた関東地区大会、三重で開催された全国大会に、それぞれ本部役員希望者が参加。外部組織との関わりから得られた学びは、生田東高校のP T A活動に大いに役立っています。

また、文化祭ではおにぎりやパン・やきそばを販売して、生徒たちのおなかを満たすお手伝いをしました。

本部は7人という少ない人数で効率的に活動をすすめることを目指し、意見を出しやすい風通しの良い運営を心がけています。

③→学年文化部門

学年・文化部門の活動は球技大会の子供達へドリンクの配布。文化祭でのクジつきドリンク販売といった学校行事のサポートのほか、保護者交流会の開催を担当しています。昨年はレストランでのアフタヌーンティーパーティーを実施し、大好評でした。



学年部門は人数も多いので、「**できる時に、できる人がやる！**」をモットーに活動しております。お互いに助け合いながら楽しく活動しています。

④→環境・交通安全部門

環境・交通安全部門の活動は大きく環境と交通安全の2つに分かれています。

環境活動は、園芸家の先生をお招きして、年3回、校門横とプランターの花の植替えを行い、花の説明や植替えのコツを教えてもらっています。

交通安全活動としては、2年ほど前から整備不良による事故を防ぐ目的で自転車点検を始めました。子ども達の事を親身に考えてくださる自転車店さんと共に、好評につき今年度は年2回実施しています。

また、文化祭では交通安全クイズと、多摩警察署のご協力のもと交通安全教育車「ゆとり号」にて交通安全体験を実施しています。

さらに、卒業生へのコサージュをプレゼントも担当しています。

活動を通じて子どもたちの安全と快適な学校環境を支えることはもちろん、保護者間の情報交換の場として活動が役に立っています。



⑤→広報部門

広報部門は、行事毎に撮影や取材をし、年に4回の広報誌発行が主な活動です。

広報部門の魅力はなんと言っても、撮影を通じて子どもの学校生活を直に感じられる事。保護者が参加出来ない行事にも参加出来るので、子どもとの会話の話題も増えます。

広報誌の取材や構成、校正作業には、Googleフォームやドライブを活用しています。撮影以外はオンラインで作業を進められる仕組みを整え、まさに、役員それぞれが時間のある時に「できる」を持ち寄り、広報紙の作成に取り組んでいます。「どこでも・誰でも参加できる」新しい形のPTA活動を実現しています。



3 アンケートからひも解く「イクヒPTA」

私たちは、まず自分たちが楽しむことを忘れずに、各々ができることを持ち寄りながら日々活動しています。

現在、PTA役員がどんな想いで活動に参加しているのか、いくつかのアンケートを実施しました。日々の活動のなかで感じたことやアンケートに寄せられた声を元に、今回の発表をまとめました。

◆参加のきっかけ

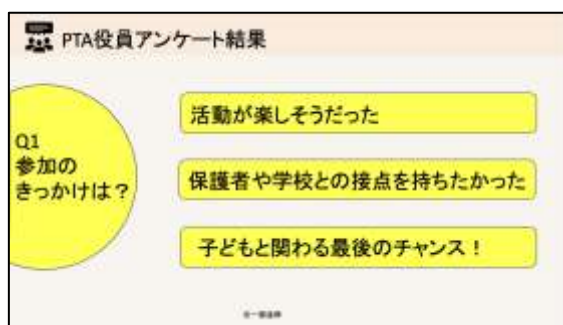
アンケートより今年度からPTA活動に参加されている1年生保護者のコメントを紹介します。

「入学時のPTAアンケートをきっかけに、人手不足の力になればと役員に参加しました。活動を通して学校を知り、娘との会話や絆を深めながら、今後もPTA活動に励みたいと思います。」

****PTA活動に参加したきっかけ****としてもっとも多かったアンケート回答は、「人とのつながりを持ちたい」、「子どもの学校を知りたい」という声でした。

その他、高校のPTAならではの特に印象的だった回答が「子どもの学校生活に関われるのもこれで最後だと思ったから」というものです。

「入学者説明会の時にPTA役員に、『子どもの学校生活に関われる最後のチャンスです』と言われ、確かに！と思ったから」という意見もありました。これは、高校でPTA活動への参加を迷う保護者の背中を押すひとつのキーワードになるかもしれないと感じました。



◆生田東高校PTAで活動した印象

実際に役員として活動に参加してみた印象を聞いてみたところ、「楽しく参加できた」「他の保護者や先生がたと情報交換ができて良かった」「学校の様子を詳しく知ることができた」など、ポジティブな感想が多く寄せられました。

また、「役員同士が助け合う温かい雰囲気」や「自分のペースで無理なく参加できる環境」を評価する回答も多く見受けられました。

少し褒めすぎかもしれませんが、今年度の生田東高校PTAが掲げる「共に創るPTA」という想いを一人ひとりが大切に活動してきた成果だと感じています。



◆アンケート結果を受けて

仕事・介護・育児など、みなさんそれぞれが異なる背景を抱えながら役員を務めています。

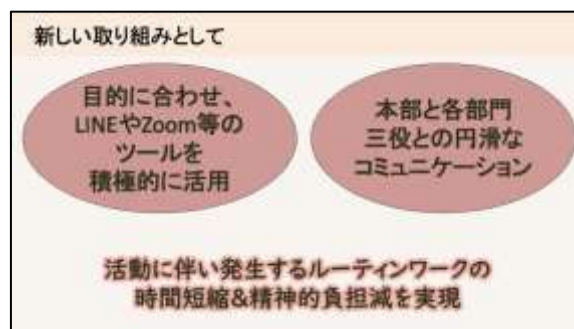
生田東高校PTAでは、役員それぞれが抱える事情をお互いに尊重し、できないときにはお任せし、その代わりにできる事があれば能動的に手を上げるという良い空気感があります。

花壇の植え替えや学校行事、地域貢献の郊外清掃などでも、部門を超えて協力し合う姿勢が特徴であり、生田東高校PTAの自慢です。

こういった流れは、アンケート結果にもあった通り、誰もが参加しやすいオープンで楽しい雰囲気作りを大切に活動してきたことの結果だと自負しています。

4 最後に

生田東高校PTAではZoom会議やLINEを積極的に活用しています。本部と各部門の三役がつながるグループLINEでは、出欠確認や情報共有、アイデア出しや決定事項の周知などを行うことで、運営が効率化しています。また、ノート機能や、「調整さん」などを活用し連絡や日常調整の手間を削減しています。こうした工夫により、時間的・精神的負担を減らし、誰もが参加しやすいPTA活動を実現しています。



今後も『共に創るPTA～みんなのできるをもちよって』を合言葉に、学校との連携を深めながら活動を続けてまいります。

温かくご理解・ご協力くださる先生方に、心より感謝申し上げます。

タイトル 「研究発表Ⅱ」

講演者 P T A会長 山田 太一

学校名 県立百合丘高等学校 P T A

講演テーマまたは研究テーマ 「百合丘高校が目指す「新しいP T A活動」」

1 はじめに

P T Aを取り巻く環境の変化は目覚ましく、コロナ禍での各イベントの中止、働き方改革に関心が向けられて以降、活動の負担軽減、効率化が話題となっています。私達も、いろいろな課題を解決するために、「新しいP T A活動」を模索し、悪戦苦闘しています。そんな活動を紹介することで、みなさんのP T A活動の一助になればと思い、今回の発表をさせていただきます。

2 百合丘高校で・・・今のP T Aの課題

P T Aが本当に必要か、任意の団体か・・・といった議論は一段落したものの小さいながらも新たな課題が話題となってきました。

- ・「リーダーよろしく！」では誰も手を上げない
- ・「今までやってきたから！」では続かない
- ・「これ喜ぶよね！」では喜んでもらえない

3 「リーダーよろしく！」では誰も手を上げない

活動に参加していただける会員は多いのですが、会長、委員長といったリーダーとしての役職は誰でも尻込みするものです。そこで、逆転の発想で、そもそもリーダーが必要なのかと考え、リーダーのいないチームとしての活動を模索し、委員会ではなくボランティア制としました。ソーシャルネットワークを利用し、生活の隙間時間を有効に使って意見を出し合い、話を上手くまとめ進めていけています。どうしてもまとまらなければ、今回は、そのイベントは保留といった気楽な気分で活動できています。

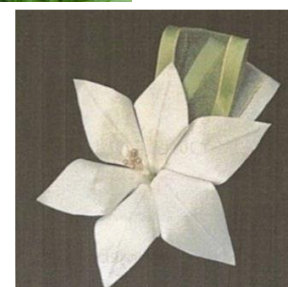
4 「今までやってきたから！」では続かない

伝統のあるイベントは、良い点も多くありますが、続けていく・・・という強制、重圧感が年々増していきますね。昨今では、みなさんの生活だけではなく、それを取り巻く環境も変わり、果たしてこのまま続けていけるか不安もあると思います。

前回の発表でご好評いただいた「ユリの育成」は、その後、防災の指導で丘への立入禁止、温暖化による育成の難しさ、炎天下での鑑賞会といった変化に思わぬ苦戦が始まりました。

また、前回の発表で注目された卒業生への「ユリのコサージュのプレゼント」も全てを手作りでは、労力が大きいといった課題が出てきました。

本年度からは、変化に対応した柔軟なやり方で、ユリの育成では、品種を代える、鑑賞会を夕刻にといった発想で、コサージュ(作りは、既製品に一手間手作りのアレンジを加えてオリジナル感をといたやり方で対応しています。



5 「これ喜ぶよね！」では喜んでもらえない

私たちが企画しているイベントは本当に今の子ども達に喜んでもらえているのだろうか。皆さんも、ふと悩んだことがあると思います。そんな時は自分達だけで考えてなくて・・・ほら、答えは子ども達が持ってますよ。

生徒会と話し合いをするなり、時間を有効に使うならアンケートという手もあります。

七夕飾りは好評でした！



今では、子ども達が中心となって校内のペンキ塗りも始まりました！

ユーザー主義・・・といったところでしょうか。

6 リスクはあります

と・・・ここまで良いことばかり、お話してきましたが・・・本当にそうなの？・・・じゃあ、明日からウチのPTAも・・・ちょっと待ってください！リスクはあります

特にボランティア制については、今年から始めてみましたが、想定外の気づきもあり、苦勞しています。

百合丘高校での新しいPTA活動

ボランティア制のリスク

私たちの仕事はここまで・・・というイメージを持つ
執行部となる本部・先生の負担が大
実際の活動はやりたい・・・準備物件の見積、会計への申請、購入
本部でお願いします

話し合いでイベントを決めるリスク

上手くいかず・・・本年度は中止も

来年度は 本部・役員なし 会の代表は必要
取りまとめのボランティアチームは必要



ボランティアという言葉の響きなのでしょうか、お力はお貸しします・・・といった感があります。リーダーがいないので気楽に参加していただけますが、本部や先生のまとめの労力が増えるのは致し方ないところでしょうか。今後は、徐々に本部・役員なしといった体制にしていくのが理想ですが、それに替わる取りまとめボランティアチームは必要かなと考えています。

7 最後に

新しいPTA活動のための一提言

協力してくれる人たちの活動しやすい体制

働きやすい職場と同じ考え方
負担が偏らないように活動量の均等化
必要なのはリーダーか

今までやってきた・・・そろそろ見直しが必要では

現状に合ってますか

支援対象の生徒の気持ちになって活動の取捨選択

自分たちだけであくせく考えるのではなく生徒とのコミュニケーション
答えは子供たちが持っている

試行錯誤してみても、少しずつ理想に近づけば良い

PTA活動は単年度計画、単年度執行・・・上手くいかなければ来年度修正は難しい



最近の私たちの活動から得られたアイデアを紹介することで、みなさんの今後のPTA活動の参考となれば幸いです。

しかしながら、これは、あくまで本校で得られた知見です。みなさんのPTAでは、それぞれに合わせた考え方があると思います。それに、本校も試行錯誤を始めたばかりです。時には予期せぬ方向へ進んでしまうこともあろうかと思いますが、今後も、私たちの活動を暖かく見守っていただき、ご助言等いただければうれしく思います。

最後になりましたが、変化の激しい時代です。みなさんも、ご一緒に、恐れず、早めに始めましょう。

決して結果を速く出す必要はありません。

求められるのは、「速い」ではなく「早い」です。

横須賀三浦地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横須賀三浦地区協議会
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和7年10月16日(木) 13:30~16:30

2 会 場 横須賀文化会館中ホール

3 参加者数 78名

4 日 程(次第)

(1) 開会式

- | | |
|--------------|---------------------------|
| ①開会の言葉 | 横須賀大津高等学校 PTA 会長 宇多寛之 |
| ②地区協議会会長挨拶 | 追浜高等学校 土谷希望 |
| ③地区学校長会議会長挨拶 | 追浜高等学校 後藤昌英 |
| ④主催者挨拶 | 神奈川県立高等学校 PTA 連合会会長 内田裕美 |
| ⑤主賓紹介及び挨拶 | (一財) 県立高等学校安全振興会理事長 中野真衣子 |

地区校長会議代表横須賀大津高等学校校長 幸田 隆

(2) 活動事例発表

①事例発表 I われら横校応援団

②質疑応答

③助言者講評 海洋科学高等学校教頭 中川崇寛

(3) 休 憩

(4) 講 演

講 師 国立研究開発法人海洋研究開発機構・海域地震火山部門
地震津波予測研究開発センターセンター長

堀 高峰 氏

演 題 「関東での地震への備え」

質疑応答

(5) 情報交換と諸連絡

- ①地区交通安全大会について 横須賀大津高等学校 PTA 会長 宇多寛之
②その他

(6) 閉会式

①閉会の言葉 追浜高等学校 PTA 副会長 竹内 初美

タイトル 「われら横高応援団」

学校名 神奈川県立横須賀高等学校 P T A

講演テーマまたは研究テーマ 「 われら横高応援団 」

1 はじめに

横須賀高校について

明治 41 年に開校した歴史のある学校、平成 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、現在は二期目となる。

自主自律は横須賀高校に深く根付いた精神で、学校行事においても生徒の自主性が尊重されている。PTA でも生徒を対等なパートナーとして、生徒の意向を踏まえたサポートをするように心がけている。

横須賀高校の特色

3年間クラス替えなし

65分間授業

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）

専門授業Principal(プリンキピア)

著名な卒業生

小泉 昌俊（物理学者 ノーベル賞受賞者）
猪熊 功（東京オリンピック柔道金メダリスト）
小泉 純一郎（元内閣総理大臣）
上地 克明（横浜市長）
吉田 雄人（前横須賀市長）
寺田 周平（サッカー元日本代表） ほか



2 横須賀高校 PTA について

役員会、実行委員会、各委員会から成り、PTA の運営に直接かかわることはないが茶話会係というものが存在する。クラス内の懇親を図ることに一役かっている

3 各委員会の活動紹介

< 予算会計委員会 >

PTA の予算や実績の取りまとめを行っている
私費会計監査や学校徴収金運営協議会への参加など PTA の予算管理だけでなく広く学校のお金に関することに関わる

< 広報委員会 >

年に三回広報紙を発行している。活動は月 2 回、発行月は毎週活動している。

保護者に公開されていないイベントもたくさんあるため先生方とも連携を取りながら取材をしている。

広報委員会



< 保健委員会 >

「心と体の健康」をテーマに学校生活をより豊かにする活動を行っている。

学食試食会や文化祭でヨガ教室や健康チェックコーナーを実施。

保健委員会

心と体の健康をテーマに、学校生活をより豊かにするイベントを計画・運営しています

【人数】
保健委員会
11名(3年:4名、2年:4名、1年:3名)

【主な活動】
・学食試食会の実施
・文化祭でヨガコーナー・健康チェックコーナーの設置・運営



令和7年度保健委員

<成人委員会>

会員同士の親睦を目的に楽しいイベントを開催。
「軍港めぐり&絶品イタリアンランチ」「劇団四季観劇」の2つの企画を開催。この2つを同時募集し、参加者がどちらか1つを選ぶことにしたことによってより多くのご家庭にご参加いただけることになった。

成人委員会

会員同士の親睦を目的に楽しいイベントを開催しています
令和7年度は2企画・4コースをご用意しました

- ・成人委員・9名(各学年×3名)
- ・担当制:実行担当・渉外担当・PC担当

今年度の取り組み

- 【共通】
- ・申込と抽選方法の効率化
- ・よくある質問と問合せフォームの新設
- 【軍港めぐり】
- ・近場で日曜日開催(アンケートの声を反映)
- ・グループLINEの作成(緊急連絡用)
- ・領収書・乗 搭乗引換券を色分け(ミス防止)
- ・代替え観光スポット準備(欠航時対策)



<交通安全委員会>

「事故に遭わない・合わせない」ためのサポートをしている。毎年1年生にセイフティカード、冊子、反射ストラップを配布している。冊子は横須賀高校オリジナルで横須賀警察署の監修を得て作っている。

交通安全委員会

2. 朝の交通安全指導

10月初旬の4日間、横須賀警察・先生方・生徒の皆さんと交通指導をしています

交通マナーについてのお話



おはよう!



イヤホンは外してね!



車に気を付けて



<学級委員会>

保護者間の親睦を深め、学校、学年及び学級の情報交換の手助けをすることを目的として活動している。「受験体験談を卒業生と保護者から」と題したシンポジウムを開催。
160人の募集が数日で埋まるほど人気のイベント

学級委員会 PTAフォーラム



●「進路についてのシンポジウム」
～受験体験談を卒業生と保護者から～

本校卒業生と保護者を招き、受験生である子どもとの関わり方、これからの時期の過ごし方、留意すべきことなどを直接伺いました



4 垣根をこえて

横須賀高校 PTA が大切にしていることは垣根をこえて協力し合うということ。

文化祭では学校から急遽要請のあった水餃子を販売したり、体育祭では予備費を使って遮光カーテンを買ったりと委員会の垣根をこえて協力することができた。

こういうことができるのも学校との信頼関係があつてこそのことだと思う。



タイトル 「関東の地震の備え」

講演者 国立開発研究法人海洋研究開発機構海域地震火山部門
地震津波予測研究開発センター センター長 堀 高峰 氏

1 はじめに

国立開発研究法人海洋研究開発機構とは

→国立開発研究法人海洋研究開発機構がどのような団体でどのような研究をされているか



2 地震の予測はどのようにされているか

国立開発研究法人海洋研究開発では地震の予測ができるように日本各地の改定に予測できる機械を設置している

→機会にも寿命がある、永久に使えるものではないが国立開発研究機構による潜水艦で修理ができるというメリットもある

3 横須賀三浦地区の高校と活断層について

横須賀三浦地区のすべての高校は活断層の上であり、津波のリスクの高い学校も多い

→自分の学校の位置や活断層の存在を認知し、対策を考えていくことが重要

4 備えについて

自分の住んでいる地域の地震によるリスクなど、まずは地震について知ることが大事

地震は必ず起こるものだから、起こることを前提に対策をしていかなければいけない



湘南鎌倉地区大会

主 催 神奈川県立高等学校 P T A 連合会湘南鎌倉地区協議会

後 援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和 7 年 10 月 14 日 (火) 13:00～16:00

2 会 場 茅ヶ崎市民会館 小ホール

3 参加者数 103 名

4 日 程 (次第)

(1) 開 会 式

- ① 開会の言葉(地区協議会会長 鶴嶺高校 PTA 会長 柳 伸広 様)
- ② 主催者挨拶(地区協議会会長 高校 PTA 会長 宮城 武広 様)
- ③ 県立学校長会議地区会長(鶴嶺高校校長 高橋 正広 様)
- ④ 来賓紹介及び挨拶(安全振興会常務理事 中野 真衣子)

(2) 講 演

講 師 株式会社コンシャスインターナショナル代表取締役
一般社団法人メイクセラピストジャパン
祝 結美子 氏

講 話 「大人が輝けば、子どもも未来も輝く
メイクセラピーから学ぶポジティブ印象術」

(3) 休 憩

(4) 研 究 発 表

- ①研究発表 神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校 PTA :
「 生徒と作り守り楽しむ西浜 PTA 活動 」
- ②助言者講評(深沢高校 校長 与安 透 様)

(5) 閉 会 式

閉会の言葉(地区協議会副会長 鶴嶺高校 PTA 会長 柳 伸広 様)

講演 大人が輝けば子どもも未来も輝く メイクセラピーから学ぶポジティブ印象術

講演者 株式会社コンシャスインターナショナル代表取締役

一般社団法人メイクセラピストジャパン代表理事

メイクセラピスト/心理カウンセラー

祝 結美子 氏



1. 祝 結美子 氏のプロフィール紹介

メイクセラピストジャパン代表理事、起業して22年、メイクセラピストと講師、心療内科で心理カウンセラーとして社会復帰支援をして活躍している。顔のコンプレックスを持つ患者さんにメイクをしたところ、自信を持ち、引きこもりが治り、社会復帰ができたという経験からメイクセラピストとして仕事をする事とした。女性だけでなく、男性も見た目、印象を髪型や服装で変えることにより病気を防ぐことができる。環境はなかなか変わらないため、その人のメンタルトレーニングをするなどして変え、職場復帰ができるようにしている。また、心の専門家として、高校生や親のカウンセリングも多数してきた。

2. 今日、明日から工夫し、人間関係の好転へ

①自己紹介をしましょう

知らない人を3秒見て、その人がどんな性格だと想像しますか?脳の仕組みで3~6秒で人を判断する。普段から自分の印象をよくしておくなど、印象管理は重要である。

②印象を変えて人生が好転した例

「どんな自分(先生、親)になりたいか」

→隣の方と相談してみよう。

③2枚の写真より女性の印象の違いをみる

Before:明るい、親しみやすい、フレンドリーであるが、プレゼンテーションのコンペで他社に負け、Webデザインの仕事が取れないのが問題であった。自分が話し出すと空気が軽んじられるような気がしていた。写真の印象では、寝起きのように髪がボサボサであること、また眉毛もボサボサ、リップが取れている、チークなしでファンデーションが薄いことがわかる。

After:仕事ができそうな雰囲気、ワックスでまとめ髪にし、ファンデーションをきれいに塗り、眉毛を整え、きちんとしたワンピースにジャケットにした。

印象の差で目的が叶わなかったが、目的をもって意識し、工夫することによって問題を解決することができた。この女性は、仕事をたくさん取ることができ、現在も第一線で活躍をしている。

④2枚の写真より男性の印象の違いをみる

どちらが面白いことを言いそうか?

Before:目鼻立ちが直線的で緊張感があり、冷たく見える。ブルーのシャツを着ている。話しかけにくい印象である。この男性は建設業の営業をしているが、怖い印象の親方たちと打ち解けたいと思っている。親方たちから話しかけられたら、面白さを発揮できると考えていた。

After:眼鏡で直線的な印象を変えた。明るい色のシャツとネクタイとした。話しかけられやすい印象になった。親方たちからも話しかけられ、かわいがられるようになった。

見た目を変えることによって周囲との関係性が変わることがわかる。

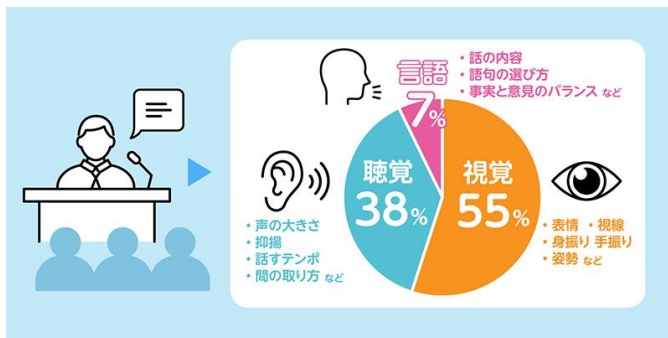
3. 印象とは

ある物事や人物に対して抱く感覚やイメージのことを指す。一般的には、視覚や聴覚など感覚情報、あるいは過去の経験や感情に基づいて形成される主観的な認識のことを意味する。

【メラビアンの方則】

「言語情報」「聴覚情報」「視覚情報」の3つは、印象に対して何パーセントずつ影響しているか、周りの方と一緒に考えてほしい。

→実は、「非言語情報」が印象に最も大きく影響する(93%)。7%の「言語情報」も大切だが扱いにくいものでもある。



【言動不一致について】

例:上司Aと上司Bの部下への声かけ

部下が咳をしている場面で、「どうした?風邪ひいた?今日は帰っていいよ。私がやっておくから。」という同じ声かけだが、上司Aは穏やかな表情でやさしい声かけ、上司Bは表情が怖く厳しい口調で話した。このように同じ声かけでも、表情や言い方が違うと異なった印象になることがわかる。これが、言動不一致である。

親が「頑張れ。」と子どもへエールを送っても表情や口調が上からであると伝わらない。子どもにしたら、ほめられた気がしないからである。これでは、褒めたことにはならない。言動不一致では、誤解されることが多いので先生方も保護者の方も注意する必要がある。

4. ポジティブな感情を最もよく表すのは笑顔

笑顔は、唯一できるポジティブな気持ちをあらわす表情である。口角を上げるだけでなく、前歯を全開にし、頬筋を上げるとよい。アンチエイジングやストレス減少、健康にもよい。

5. あなたが「なりたい自分」は?

あなたは他者からのどのような言葉でうれしい気持ちになり、やる気につながりますか?

他者からの言葉(印象によって得られる言葉)

例:あなたに会うと元気が出ます。

例:話していると癒されます。

例:気持ちが前向きになります。

などがある。表情、態度、言葉を意識して過ごすことが大切である。

6. デモンストレーション

どうやったらハツラツに見えるか、デモンストレーションの前に男性のシャツ、ポロシャツの色の例を示した。

印象術の講習会では、会場より男性の代表と女性の代表の方がステージ上で、いくつかの印象の違いのパターンを実践していただいた。男性は、ネクタイとワイシャツの組み合わせや眼鏡を変えることにより、印象が変わることを見せていただいた。女性については、チークの入れ方、リップの色の選び方などを教えていただいた。



7. まとめ

思春期のいじめ、不登校の子どものカウンセリングを行ってきたが、親が自分のことを信じてくれないとの声が多かった。言動不一致せず、子どもへ言葉で伝え、自分が愛されていることを伝えて欲しい。「大人が輝けば子どもも未来も輝く」ということを忘れずに。

「研究発表Ⅰ」

学校名：神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校 PTA

研究テーマ：「生徒と作り守り楽しむ西浜 PTA 活動」

1. 学校紹介

初めに、茅ヶ崎西浜高等学校は一学年 9 クラスで、合計 27 クラスの学校です。

2 年次より総合型・理型に分かれた教育課程を行っています。

現在の生徒数は 1025 名です。

本校は授業を軸としたスタディサプリを活用した学習支援や、36 か月のキャリア計画（進路支援）、充実した情報教育（プログラミング教育研究指定校）を教育の柱としています。

難関大学合格特訓プロジェクト発足式



サプリ講師が学習法を伝授

本校の教育目標は、生徒が主体的に学ぶ意欲を養い、自ら課題を発見し解決するための思考力・判断力・表現力を育み、自律的な生活態度を養い、情報や想像力を育み、「気品と誇り」を身に着けさせることです。命の大切さや他者への思いやりの心を育み、人権を尊重する公民の育成を目指しています。

2. 本校の PTA 紹介

本校の PTA としては、できるときにできることを無理せず行うことを基本としています。

本部の他に、学年委員会・広報委員会・成人教育委員会・環境整備委員会と、各委員会から選出される指名委員会で構成されています。

年間の活動は、学校行事への参加・交通安全啓蒙活動・校内の環境美化推進・広報誌による情報発信など、多岐にわたっています。

P T A 本部の活動内容は、運営委員会の運営や自転車点検・校内美化活動の計画、西浜祭への参加などです。

活動日数は一年で 12～15 回で、人数は約 23 名です。

学年委員会の活動内容は、体育大会・球技大会での飲料などの提供や登校駐輪指導、交通安全啓蒙活動・自転車点検・校内美化活動への参加です。

活動日数は年間 6～10 回で、人数は 46 名です。広報委員会の活動内容は、学校行事での生徒や先生方、PTA 活動などの保護者の皆様に知っていただくために広報誌を年 3 回発行しています。普段のご家庭では見ることができない学校生活を知っていただくため、幅広く撮影・取材を行っています。

体育大会や西浜祭・球技大会・その他行事の撮影や取材を行っています。

活動日数は、広報誌年 3 回発行と取材・編集会議年 20 回で、人数は 41 名です。

成人教育委員会の活動内容は、保護者の皆様の交流の場として楽しんで参加いただけるような社会見学などを企画運営しています。社会見学では、保護者同士が親睦を深められるようバス旅行を企画しています。

社会見学の企画の他、校内美化活動や自転車点検・登校駐輪指導にも参加しています。

活動日数は年 10 回で、人数は 37 名です。

環境整備委員会の活動内容は、正門や校内の花壇の整備です。

年 2 回、春と秋に季節のお花の植え替えをしています。入学式・卒業式にはプランターで寄せ植えを作って設置しています。

また、自転車点検・校内美化活動・登校駐輪指導にも参加しています。

活動日数は年 10 回で、人数は 52 名です。

3. 本校の PTA 活動

●西浜祭（文化祭）

2025 年度は 9 月 19 日・20 日に西浜祭を執り行いました。

19 日は生徒のみの開催となるため、本部は 20 日に「西浜休憩所」と銘打って出店しました。

唯一エアコンの効いた部屋にテーブルと椅子を用意し、お水、お茶、スポーツドリンクを無料提供し、お茶菓子をおもちゃのスcoopですくうアトラクションを準備し、楽しみながら休憩できる環境を整えました。大盛況で、お昼過ぎにはお菓子すくいは終了してしまいましたが、心地よく過ごしていただけたと思います。



広報委員会で撮影した学校行事や修学旅行の写真をスライドにまとめ、大きなモニターで流し本校の楽しさをアピールしました。

本校は自転車通学が多いため、来年度より取り締まりが厳しくなる自転車ルールの注意喚起として、主な違反をイラストにし、反則金一覧とともにプリントにまとめ配布しました。

休憩所の一部を使って、例年実施している北朝鮮拉致被害者のパネル展示も行いました。

●自転車点検

本校は、8 割の生徒が自転車通学をしています。茅ヶ崎市外からの生徒は茅ヶ崎駅周辺の駐輪場に自転車を置いているため、整備がままならないことが懸念事項となっています。そこで、PTA にて年 1 回の自転車点検を計画し実施しています。

2025 年度は 9 月 30 日に、神奈川県自転車協同組合茅ヶ崎寒川支部のご支援並びに PTA の皆様の協力により、自転車点検を行いました。

約 600 台の自転車の点検を 10 チームに分かれて、「整備が必要な自転車」と、「整備の必要がない自転車」の分類を行い、整備が必要な自転車に関しては、保護者の方に整備喚起を行いました。

2024 年度までは一日がかりで行っていましたが、2025 年度は酷暑ということもあり、新しい試みとして、作業内容を見直し、半日（午前中）での実施を計画しました。それまでの簡単な修理やメンテナンスを省略し、業者 1 名とチェック要員 2 名を 1 チームとし、整備の要否のみをチェックし連絡する手順としました。これにより、午前中のみで完了させることができました。ただ、平日ということもあり、参加人数は少数にとどまり、あらためて一般 PTA 会員の方に多く参加してもらえるような工夫が必要だと感じました。今後も自転車点検の必要性和併せて訴えていきたいと考えています。



自転車点検参加者

●校内美化活動

環境整備委員会の協力の元、11月に校内美化活動を行っています。

数年前は校内の壁のペンキ塗りを行ったりしていましたが、2024年度は本校敷地内の落ち葉や周辺の歩道部分の清掃を行いました。

落ち葉の他にもいろいろな物が落ちており、中にはモバイルイヤホンの片方のみが落ちていることもあり、ワイヤレス機器のバッテリーによる火災が問題となっていることもあり、回収できたことは幸いでした。

2024年度は生徒も協力してくれて環境への意識が高いことがうかがえました。



また、環境整備委員会ではプランター等への花の植え替え、こまめな水やりなど行っています。先生や生徒にも協力いただき、草花も元気に育っています。

本校は海の近くのため、防風林はありますが、季節を感じる草木があまり多くなく、環境整備委員が、季節の花々を感じるように整えています。

そんな草花を枯らさないように、自ら進んで水やりもしてくれる生徒が多い学校です。



4. 2026 年 4 月から施行される道路交通法改正についての啓蒙活動

自転車事故の増加・交通安全の意識向上・安全な街づくりを目的として、2026 年 4 月から、道路交通法が改正され罰則やペナルティがつくことになります。

生徒に対して自転車ルールを理解を促し、安全運転の重要性を再確認してもらいたいと考えています。

具体的な交通違反の内容としては、歩道の走行ルールの厳格化され、信号無視や交差点での一時停止違反、特に運転操作の妨げとなる、スマートフォンやイヤホンの使用について明確な禁止事項となっています。

違反した場合の影響は、特に、反則金の発生がこれまでとは大きく異なる点となります。

事故やケガのリスク排除は目的となりますが、現実的に、予定外の支出とならないよう、注意喚起を行うことにより、来年度から施行される交通違反についての理解を深め、保護者に対しても交通安全の必要性を考えてもらう機会になると考えています。

2026年度施行 自転車運転違反一覧（抜粋）



茅ヶ崎西浜高校 PTA

Copyrightで作成

違反行為	反則金（予定）
信号無視	6,000 円
一時不停止	5,000 円
通行区分違反	6,000 円
酒気帯び運転	12,000 円
スマホ運転	12,000 円
傘差し運転	5,000 円
ヘッドホン両耳装着	12,000 円
無灯火	3,000 円
ブレーキ整備不良	6,000 円
踏切一時侵入	7,000 円
並走・二人乗り	3,000 円
歩道で歩行者優先違反	6,000 円
標識のない歩道走行	6,000 円
一方通行逆走	6,000 円
車道の右側通行	6,000 円
横断歩道での徐行義務違反	5,000 円
踏切の遮断機無視	7,000 円
違反行為	反則金（予定）
信号無視	6,000 円

第 62 回 高 P 連平塚秦野地区大会

主 催 神奈川県立高等学校 P T A 連合会 平塚秦野地区協議会

後 援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和 7 年 10 月 1 日 (水) 13:30～17:00

2 会 場 ひらしん平塚文化芸術ホール 大ホール

3 参加者数 286 名

4 日 程 (次第)

(1) 開会式

- ① 開会の言葉 (県立伊志田高等学校 P T A 会長)
- ② 平塚秦野地区会長挨拶 (県立秦野総合高等学校 P T A 会長)
- ③ 当番校校長挨拶 (県立秦野総合高等学校長)
- ④ 挨拶 (県立高等学校 P T A 連合会会長)
- ⑤ 来賓挨拶 (県立高等学校安全振興会理事長)
- ⑥ 県立高等学校 P T A 連合会出席者紹介

(2) 活動事例発表

- ① 事例発表Ⅰ 県立平塚湘風高等学校 P T A 「共に学び 寄り添って 命を守ろう」
- ② 事例発表Ⅱ 県立平塚中等教育学校 P T A 「できる人ができることを」

(3) 質疑応答・助言者講評 (助言者 伊志田高等学校 校長、二宮高等学校 校長)

(4) 講演

講師 : 神奈川工科大学学長補佐 工学部応用化学生物学科教授 小池あゆみ氏

演題 : 親子で描くキャリアの地図 ～親ができるキャリアサポート～

質疑応答

(5) 閉会式

閉会の言葉 (県立伊志田高等学校 P T A 会長)

タイトル 研究発表

学校名 神奈川県立平塚湘風高等学校

研究テーマ 『共に学び 寄り添って 命を守ろう』

《平塚湘風高等学校とは》

本校は新校設置計画により、平成20年に県立五領ヶ台高等学校と県立神田高等学校が統合され、元神田高校の敷地に、単位制による全日制課程、2学期制の学校として新たに設置されました。今年度19期生を迎えました。最寄り駅のJR平塚駅もしくは小田急本厚木駅からバスで25分圏内に位置していますが、平塚市周辺からの自転車通学者が45%を占めています。ウエイトリフティング・パワーリフティング部の活躍は知られるところとなっています。他部活動も活発化し、PTAからも部活動補助費として50万程の予算立てをしています。また、学校行事も充実し、体育祭、文化祭、球技大会など1年を通して生徒の元気な姿が見られます。

《本校PTA活動》

コロナ禍以降、PTA活動は縮小傾向にあり、本校もその例に漏れることはありません。しかし、3年間運営委員を務めていただいた方の中には「残ってお手伝いしたい」という声もあります。このように「PTA愛」にあふれた活動を誇りに感じています。昨年度と今年度の2カ年の重点取組事項は「Ⅰ 共に学び、開かれたPTA活動」「Ⅱ 寄り添って、大切な命を守ろう」です。この方針を決定した際「持続可能なPTA活動」とは何か、そして、「PTAとして不可欠な活動」とは何かということが論点となり、そこから導き出したものが上記の重点取組であり、スローガンになっています。

Ⅰ 共に学び 開かれたPTA活動

(1) ICTの活用

- ① PTA活動用「Classroom」の開設
- ② 生徒が所持する「ChromeBook」の活用研修会
- ③ 「Classroom」内で「PTA活動発表」のシートの編集

写真の投稿の仕方について、「ChromeBook」の場合と「スマホ」の場合の両方のやり方が学べ、皆にわかりやすく、取り組みやすい講習会となりました。
〈令和6年7月 ICT研修会より〉



〈感想〉

本校教諭が講師となり、保護者からは「何年かぶりに生徒の立場に戻って、面白かった」「高校時代を思い出した」などの感想が挙がりました。

④参加率を増やすための手立てとして、運営委員会を来校（オフライン）又はGoogle Meet（オンライン）の併用開催とし、利便性を向上させ、実践研修を行いました。〈令和7年5月 運営委員会より〉

オフラインではプロジェクターで、オンラインでは画面共有で進めます



〈感想〉翌月の定例の運営委員会で実施したところ、「パソコンの前なのに緊張してしまった」「在宅・出先でも参加できるのは便利である」という声や、子育て中の教諭が赤ちゃんと一緒に参加する例もありました。

Ⅱ 寄り添って命を守ろう

(1) あいさつ運動（毎月第2週目の水曜日）

①繋がるチャンス

- ・生徒や地域と繋がるきっかけができる。

②交通安全

- ・様々な交通手段で通学する生徒への声かけ。
特に自転車通学の生徒の対応が多かった。

③学校に行こうDAY（令和7年度から）

- ・あいさつ運動実施にあわせて校内の様子を見ていただく機会を設けたいと「あいさつ運動」から広がった取り組みです。

(2) 自転車点検

神奈川県では近年、高校生の自転車事故は横ばいとなっており、減少の兆しがありません。その中で自転車自体に起因する事故（路上のパンク、ブレーキ不良など）を少しでも減らそうと「自転車点検」を行っています。

(3) 令和6年「田村地区共助・減災対策会議」

従来平塚市役所の主催の「避難所運営会議」を
拡大させていただきました。

本校会議室において、「互いの役割と共助（互助）について話し合い、災害時における迅速かつ安全な避難対応につなげることを目的とし、実施しました。市役所・自治会・事務長・本校管理職・PTA会長・書記などの15名が一堂に会し、有意義な懇談がなされました。

①本校は指定避難所

自治会の防災倉庫も設置しています。生徒を最優先に考えがちですが、災害の場ではそこに居るすべてが等しく守られなければならないことや、高校生が「避難弱者」の助けとなるなど、協働・連携が大切であることも考えさせられました。

②田村地区の防災の課題

平塚市は相模川、渋田川、鈴川、金目川が相模湾に流れ下る河口付近に広がった平野です。そのため、豪雨の際「河川の氾濫」「内水による災害」が最も重大な課題となります。また地震の際の「川津波」も考えられます。以上のことについて、生徒新聞委員作成のハザードマップを囲んで、危険地帯の話をしました。自治会のリーダーの話はとても参考になりました。

(4) 防災研修

生徒と共に学ぶ機会がありました。

①DIG研修会

令和6年・7年共に、生徒新聞委員と環境委員が行う研修に参加しました。本校を中心に置いた地図を広げ、災害時の危険箇所と避難に有用な場所の確認をしました。カラーペンで各エリアを色分けし、目印のシールを貼るなどゲーム感覚で楽しく作業をすることで生徒との良い交流の場になりました。

〈令和7年7月 DIG研修会より〉



②起震車體驗

「理科」の授業において、平塚市役所の支援による「起震車体験・救命救急訓練」を行いました。PTAも参加し、地震体験を行いました。

〈令和6年11月 起震車体験より〉



《研究成果》

①生徒・地域の方々・PTAの皆さんと共に学べたこと

②学校が中心となって、「地域」や「子どもたち」のために、貢献できることはまだあるということ

③「ICTのツールを活かした交流」を体験できたこと

④「スマート」なPTA活動を考え、新しい事にもチャレンジし、学ぶ喜びを発見したこと

⑤ P T A活動を「持続可能」にする手がかりを模索することができたこと

私たちPTAはこれからも『共に学び、寄り添い、命を守る』活動をしていきます。

タイトル	研究発表
学校名	神奈川県立平塚中等教育学校
研究テーマ	『できる人ができることを』

【学校紹介】

神奈川県立平塚中等教育学校は、神奈川県で初めての公立中高一貫校として、2009年4月に開校しました。今年で17年目を迎え、現在12期生から17期生が在籍しています。

6年間の一貫した教育課程や学習環境の中で、個性や創造性の伸長を図り、国際社会に対応できる幅広い教養と社会性・独創性を備えた人材の育成を目指しています。

【PTA 本部について】

本部は、会長1名、副会長3名、書記2名、会計2名、会計監査2名で構成されています。

役員やグループメンバーは、毎年の意向調査を行い決めています。

各グループの人数は各学年2～3名を目安にしていますが、定員等は設けていません。

●教職員紹介「なみき道」の発行

早い段階で職員と新しいPTA役員を紹介するために、広報紙とは別に「なみき道」を発行しています。小学校を卒業し、入学したばかりの保護者の安心につながっています。

●翠星祭文化部門の活動

平塚中等PTAを知ってもらうため、在校生やその保護者だけでなく、小学生やその保護者への取り組みとして、顔出しパネルや神社の設置、校章入りの鉛筆やまんじゅうの販売、購買でのパン販売でもお世話になっている「サンメッセしんわ」とコラボした総菜パンの販売があります。

こうした活動は、保護者だけでなく地域の人々にも、平塚中等を知ってもらう大切な機会になっています。

●その他

・コロナ禍で膨れ上がった繰越金の対応および、PTA会費の使い方を見直し、月450円であった会費を250円に変更し、年間5,400円か3,000円へ会費の値下げに踏み切りました。

・PTAが任意団体であることを踏まえ、PTA規約に「入会意思を示した者」の文言を加えるとともに、入会意向確認書を作成し、保護者のPTA入会意思の確認をすることを始めました。

・以前より検討していたPTA専用のWi-Fiの導入を実現し、来校しなくても役員会・委員会が開催できるようにしました。

・前期生の給食導入へ向けての試食会に本部役員・各グループメンバーで参加し、保護者としての要望や意見等をアンケートに回答しました。

以上のように、社会情勢に合わせて、保護者の負担を軽減しつつも、活動が継続できるように工夫しています。

●各グループの活動

広報グループ

年に2～3回、広報紙「翠星」を発行するのが主な活動です。

広報紙づくりは撮影、原稿作成、編集作業など工程が多く、大変なこともあります。広報紙が完成した時の達成感はとても大きいです。

翠星祭体育部門・文化部門・合唱祭などの学校行事や学年ごとの行事のほか、保護者として知りたい情報を盛り込んだ紙面づくりをしています。

撮影、取材を通して、普段目にすることができない子どもたちの学校での姿を間近で見られることも活動の魅力の一つとなっています。

交流活動グループ

全学年の保護者を対象とした交流会の企画、同学年の保護者交流となるクラスや学年懇談会の企画、翠星祭体育部門の受付や、文化部門の販売お手伝いなど学校行事のサポートなどを中心に活動しています。

コロナ禍に始めた卒入学祝いの装飾も継続して行っています。

様々な活動を通して、グループ役員自身が楽しむことも大切にしています

交通安全グループ

生徒が安全に登校し、安心して学校生活を送れるよう、2つの活動に取り組んでいます。

①登校時の安全確保

毎年6月、11月には、学校周辺や駅での交通安全指導を行い、安全に登校できるよう支援しています。9月には、「神奈川県自転車商協同組合湘南支部・平塚第一支部」の皆さんのご協力のもと、後期生の自転車点検を実施し、安全に自転車通学ができるようサポートしています。

②制服リサイクル

秋の翠星祭文化部門で回収した制服を、翌年の春の授業参観で販売する取り組みです。6年間同じデザインの制服を着用する中高一貫校ならではの活動として、保護者からも好評をいただいています。

今後も先生方と連携しながら、生徒が周囲の安全にも目を向けられるよう、きめ細やかな支援を続けていきます。

【コロナ禍での活動】

2020年、コロナ禍で保護者が学校に来ることができなくなったため、各委員会を無くし、PTA本部8人のみでPTA活動を継続、最小限の活動を行いました。

2022年、コロナが落ち着き、PTA活動再開にあたり、一度なくなったものをゼロから再生させるのに、委員会という響きが固いので、活動内容に大きな変化はありませんが、みんなが参加しやすいように名称を委員会からグループに変更しました。

また学年やクラスの人数制限を設けず、グループ活動参加者を募るようにしました。

そのおかげか、現在も希望者のみで活動を継続することが出来ています。

【課題】

コロナ禍以降、学校行事の内容や保護者の関わり方が変わり、PTA活動の在り方も見直しを迫られました。

また「PTA加入は任意である」という認識が広まったことで、若干ですが、未加入者という問題が新たに生じてきました。

保護者と学校が協力して、生徒が安全に楽しく学校生活が送れるようにサポートするため、PTAの活動はなくてはならないものです。

このままでは「誰がPTAを担っていくのか」という不安もあります。

【今後の取り組み】

PTAサポーター制度

学校行事の際に来校した保護者が気軽に活動に参加できる仕組みです。短時間でも関わっていただくことで、参加のハードルを下げています。

保護者懇談会

吹奏楽部の演奏の鑑賞やOBとの懇談、部活動の見学会を実施して、幅広い学年の保護者同士がつながる機会を作りました。懇談会は久しぶりの開催となりましたが、参加者の皆さまにも大変好評でした。

県内全域から生徒が集まるため、地元との繋がりが少なく保護者も不安だからこそ、学年を超えた交流会などが必要だと改めて感じました。

【まとめ】

平塚中等PTAではコロナで行動制限がある中でも、いち早く委員会をグループにして活動を続けてきました。コロナ禍で、保護者が学校行事に参加する機会も減り、PTAに対する意識や保護者同士の関わり方も変化しました。

また、PTA加入は任意であることが周知され、PTAのあり方を改めて考えることになりました。

6年間を通しての教育が、子どもだけではなく、保護者の付き合いも幅広く、PTAに活かされていることが本校の強みです。

入学した1年生のうちから、上級生の保護者と交流することによって、早い時期から6年間のイメージができ、長いスパンで子どもたちに寄り添ったサポートが出来ます。

今後も、変化する社会情勢の中で、私たち平塚中等PTAは、「できる人ができることを」という気持ちで支え合いながら、楽しく活動を続けていきたいと考えています。

令和 7 年 度 県 西 地 区 大 会

主催 神奈川県立高等学校 P T A 連合会 県西地区協議会
後援 神奈川県教育委員会
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和 7 年 10 月 4 日 (土) 12 : 25 ~ 15 : 50

2 会 場 南足柄市文化会館 大ホール

3 参加者数 168 名

4 日 程 (次第)

アトラクション 西湘高等学校吹奏楽部による発表

(1) 開 会 式

①開会の言葉 吉田島高等学校 P T A 会長 小林 康寛
②主催者挨拶 神奈川県立高等学校 P T A 連合会 県西地区協議会
会長 (西湘高等学校 P T A 会長) 府川 健一
③地区協議会代表校長挨拶 西湘高等学校長 丹野 栄一
④神奈川県立高等学校 P T A 連合会代表挨拶 副会長 釣 一博
⑤来賓挨拶 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
常務理事 吉川 亮

(2) 活動事例発表

①事例発表 発表者 吉田島高等学校 P T A
テーマ 吉田島高等学校 P T A 実りある楽しい活動をめざして
②質疑応答
③助言者講評 山北高等学校長 多田 功

(3) 休 憩

(4) 講 演

講 師 お笑い芸人 やせ^{ナイト}騎士
演 題 「しくじり先生～倒産、自己破産、離婚、自殺未遂からの逆転劇」
質疑応答

(5) 閉 会 式

①閉会の言葉 神奈川県立高等学校 P T A 連合会 県西地区協議会
副会長 (小田原城北工業高等学校 P T A 会長)
小松 秀樹

タイトル 「令和7年度（第63回）神奈川県立高等学校PTA連合会 県西地区大会」

発表者 吉田島高等学校PTA会長 小林康寛ほか

学校名 吉田島高等学校PTA

研究テーマ「吉田島高等学校PTA 実りある楽しい活動をめざして」

1 はじめに

吉田島高等学校は今年で創立118年を迎える歴史ある学校です。全日制の単位制で農業科は都市農業科、食品加工科、環境緑地科の3科と家庭科は生活科学科の1科を合わせた専門高校です。吉田島高等学校の特色の1つ目はすべての学科で科目、農業と環境を履修し、命や食について学び、生産から食料のありがたみや大切さを学んでいます。2つ目は1年次生において1泊2日の演習林宿泊研修を実施しており、携帯電話のつながらない環境下で登山による人工林の観察、水源地の見学を通して、水のありがたさを実感したり、集団行動の基礎作りを体験したりしています。3つ目は演習林管理作業を実施し、樹木を間伐することで森林の果たす役割に触れることで環境教育に力を入れています。

2.吉田島高等学校PTAについて

PTA本部を中心に学年、広報、成人委員会で組織されています。また、5月の実行委員会において年間のスローガンを実行員会で決め、活動しています。また、会議は本部役員会（本部のみ）、実行委員会（本部＋各委員長、副委員長）、常置委員会（全員）、さらに指名委員会、予算会計委員会が時期によって開かれています。PTA本部の活動は主に体育祭での飲料配布、矢倉沢演習林にある黒ヶ畑寮でのPTA研修の企画、文化祭模擬店参加などです。学年委員会ではあいさつ運動やワンコイン教室（プリザーブドフラワー）の開催、地域清掃活動に参加をしています。成人委員会はバス研修の企画や正月飾り教室の開催（今年度は味噌づくり教室）を企画、運営しています。広報委員会は年2回の広報誌の作成と行事の取材、広報誌編集作業を行っています。各委員会の協力のもと、子どもたちの成長を支え、会員同士の交流など充実した活動となっています。内容につきましてはスライドをご覧ください。

3 現状について

活動につきましては会員の参加してよかったという声を踏まえ、概ね満足していただいているものとして認識しています。とくに黒ヶ畑研修会では学校産のお米や野菜を使ったカレーづくりや野菜焼きを通して会員同士の交流が図れました。今年度の体育祭は小田原アリーナで開催しました。飲料配布をスポーツドリンクのみにした結果、普段飲み慣れていない子どもたちも多く、改善する必要があると感じました。さらに黒ヶ畑研修会では例年より子どもたちの宿泊が早く実施されたため、清掃活動を行えないままの開催となってしまいました。また、バスの手配も難しく、2か月前ではすでに予約が入っていたため、年間行事の中に入れ、仮予約が必要だったと感じました。

4 今後の課題について

各種会議の内容の重なりがあり、開催時間について見直す方向で検討を進めています。役員決めについては実行委員会でアンケートの文言等を見直した結果、入学予定者説明会でお声かけさせていただくだけで役員の充足を果たすことができました。また、アンケートにPTAの年間計画を盛り込むなど活動を見える化する工夫も必要です。会員の行事参加については協力を得られたと感じています。また、役員は難しいものの、ボランティアなら参加できるとの声を参加者にいただいたので、アンケートを実施するなど工夫して学校に来ていただく仕組みを作りたいと考えています。

5.結びに

PとTが手を取り合って学校をより身近に感じながら、子どもたちの成長をそばで見守り、その喜びを共に分かち合える活動を今後も展開していきたいです。

みなさん、こんにちは。

山北高校、校長の多田功です。

先ほどの吉田島高等学校 PTA の皆様、活動報告と取組のすばらしいご発表をありがとうございました。講評という形で少し述べさせていただきます。

発表の中でも学校紹介がありましたが、吉田島高校は、創立118年を迎える、歴史と伝統のある学校です。足柄上郡農林学校、県立農林高校、県立吉田島農林高校などと校名を変え時代とともに変遷を重ねてきました。

平成22年には、県立吉田島総合高校へと校名変更し、単位制総合学科高校となりました。

平成29年には、校名が現在の県立吉田島高校となり、都市農業科、食品加工科、環境緑地科の三科に改編されました。さらに平成31年には県立高校では唯一の家庭科の学科、生活科学科が実習施設とともに併置されて、現在に至っています。

昨年、地区の校長会で吉田島高校が会場になった際も、岩崎校長先生が直々にご案内をしてくださいました。すばらしい施設に圧倒されました。ここで学べる生徒さんは本当にめぐまれているなあと思いました。このように、歴史と伝統、また地域の人々に支えられながら、農、食、環境、健康に関する、まさに、いのちの教育活動を実践されております。118年目を迎えることに改めまして、その教育活動に敬意を表するものです。

さて、PTAの皆さんの発表についてですが、「実りある 楽しい 活動を目指して」というテーマを掲げた発表でした、まず、毎年5月の実行委員会で、各委員会で年間スローガンということで、目標を立てられているところがまず、すばらしいなあ、と思いました。またPTA活動の本来の魅力と価値を見いだす工夫がなされ、一方では打合せのスリム化・見える化などの工夫をされていました。本部の皆様の活動は多岐にわたり、大変ですが、それを楽しんでやっておられました。

なかでも、演習林のある黒ヶ畑寮での研修企画は、広大な敷地を有し、吉田島高校ならではの強みを活かす活動になっているなあと思いました。

学年委員会の皆さんは、挨拶運動、ワンコイン

活動の開催、地域清掃の参加を通じて、楽しみながら、子どもたちの成長を見ることができ、保護者同士の情報交流の機会にもなっていると感じました。成人委員会の皆さんは、バスの研修旅行の企画や、正月飾り付け教室の開催など、まさに保護者同士の親睦交流を意欲的に楽しんでおられました。広報委員会は、年二回の広報誌の発行に向けて、計画的に実行され、忙しい中でも意欲的に取り組まれていると感じました。

このように、学校と地域、そして保護者と教職員が、一体となって協力し合い、楽しみながら実りのあるPTA活動を続けることは、学校と家庭の連携をさらに深め、子どもたちへのよりよい支援を提供するために不可欠だと思います。

PTA活動を、単なる学校行事のサポートだけにとどめず、会員の皆様のコミュニケーションやスキルアップの場としても重要で、会員一人一人が、自身の得意分野を活かすことで、PTA組織全体が活性化していく、吉田島高校の発表を拝聴して、このことを改めて確信いたしました。

全国な課題として、PTAの加入率が下がっている中、100%の加入率というのは、もはや、当たり前ではない時代に来ています。各校におかれましても、入会を迷っていらっしゃる方への対応や説明で苦慮されているのではないのでしょうか。さらに、役員の安定的確保などに各校の指名委員会さんなどが、様々な工夫を講じていることと思います。

吉田島高校のように、アンケートの文言そのものの検討を加えて、さらに年間計画を盛り込むなど、

また、役員というハードルを下げて、ボランティアという形で取り込みながら活動をしていくという手法は大変参考になりました。

最後になりますが、保護者が学校に関わっていることを子どもたちが感じることで、安心感や誇りを持つことにもつながります。皆様の熱意ある実りある活動をさらに発展させ、地域社会に貢献していくことを期待しております。

吉田島高校の皆様、貴重なお話をありがとうございました。今後ますますのPTA活動の発展とご活躍を祈念いたしまして、講評とさせていただきます。ありがとうございました。

県 央 地 区 大 会

主催 神奈川県立高等学校 P T A 連合会 県央地区協議会
後援 神奈川県立高等学校 県央地区校長会
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和 7 年 10 月 22 日（水） 13 : 00 ~ 16 : 00

2 会 場 綾瀬市オーエンス文化会館 小ホール

3 参加者数 130 名

4 日 程（次第）

（1）開 会 式

- ①開会の言葉
- ②主催者挨拶
- ③地区学校長会議会長挨拶
- ④来賓紹介及び挨拶

（2）活動事例発表

- ①事例発表 I 座間総合高等学校 P T A
『令和の PTA とは？』
- ②事例発表 II 厚木西高等学校 P T A
『通学における事故防止に向けて取り組む中で見えてきたこと』
- ③質疑応答
- ④助言者講評

（3）休 憩

（4）講 演

講 師 松島 斉 氏

演 題 『ペップトーク』

～親・教師として知っておきたい やる気を引き出す言葉の力～

質疑応答

（5）閉 会 式

- ①閉会の言葉

タイトル 「事例発表Ⅰ」
 学校名 座間総合高等学校 P T A
 研究テーマ 「令和の P T A とは」

1 はじめに

《座間総合高等学校》

神奈川県立座間総合高等学校は、2009 年(平成 21 年)に栗原高校とひばりが丘高校の統合により誕生した、県央地区初の総合学科高校です。全日制・単位制を採用し、生徒一人ひとりの個性や進路に応じた柔軟な学びを提供しています。教育の柱として「キャリア教育」と「国際理解教育」を掲げ、3 年間を通じたキャリアプログラムや、多文化共生を目指した国際的な取り組みを展開しています。

また、学問や職業のつながりを意識した 4 つの系列に基づく多彩な選択科目を設けており、生徒は自分の興味や将来の目標に合わせて時間割を組むことができます。少人数教育にも力を入れており、入学時は 30 人編成のホームルームで、教員によるきめ細かな指導が行われます。2・3 年次でも多くの科目で少人数授業を実施し、生徒の学びを丁寧を支えています。

《校章》

座間市の花であるひまわり色の円の内側に、座間市を表す「Z」と地球を置いています。また、左右には、教育活動の柱である「国際理解教育」と「キャリア教育」を表す二つの星を置いています。



2 P T A 活動紹介

座間総合高等学校 P T A の構成ならびに活動は次の表のとおりです。

本部	学校との連絡・調整、運営委員会の開催、委員会に無い事業
年次地域委員会	文化祭出店、スポーツ大会での豚汁、環境整備事業(年 1 回)
成人委員会	文化祭出店、成人講座事業
広報委員会	広報誌「The 創」の発行(年 2 回)
指名委員会	文化祭出店(本部と協力)、次年度役員の調査、依頼

各委員会に振り当てられていない事業に関しては、本部が主導となり、役員全員に協力の依頼を掛け、P T A 全体で運営をしております。

3 研究発表「令和の P T A」について

背景

P T A 活動には、その時代ごとに異なる課題が存在します。令和に入ってから「任意加入制度」に伴う退会者や未加入者の増加が大きな問題となっています。その結果、全国各地で会員数の減少が進み、P T A の運営が困難となり、他校においては解散に至る事例も報告されています。

現状と課題

本校においても、同様の課題が将来的に起こり得る状況にあります。特に、従来から続いてきた「昭和型 P T A」と呼ばれる、引き継ぎ主体の古い運営スタイルが現在の保護者の意識や環境にそぐわず、受け入れられにくいことが明らかになっ

てきました。昭和の時代に作られた仕組みや慣習の一部は、現代社会に適合しない部分があり、その見直しが求められています。

本校の取り組み

このような状況を踏まえ、本校では今年度よりPTA運営の方法と活動内容の見直しを進めています。協議を重ねながら、すぐに実行可能な部分から改善に着手し、保護者にとって「このPTAなら加入したい」と思える組織を目指しています。

発表内容

本発表では、

1. 現状における課題の詳細
2. すでに取り組みを開始した改善策
3. まだ解決に至っていない課題

について報告し、今後の方向性を皆様と共有したいと考えております。

4 まとめ

令和のPTA運営には、さまざまな問題があると思います。そうした問題を解決していくためには、まずPTAの目的が「子どものための活動」であることを改めて認識することが大切だと感じました。そして、その活動を実際に担っているのは、今の時代の会員である保護者や教職員であることも忘れてはなりません。だからこそ、昭和からの慣習をそのまま続けるのではなく、令和の時代にふさわしい運営方法を検討していくことが重要であると考えております。

タイトル 「事例発表Ⅱ」

学校名 厚木西高等学校 P T A

研究テーマ 「通学における事故防止に向けて取り組む中で見えてきたこと」

1 はじめに

《厚木西高等学校》

昭和 59 年 4 月に厚木市の研究学園都市「森の里」地区に開校した全日制普通科高校で、昨年度、創立 40 周年記念事業を実施しました。これまでに約 13,000 人の卒業生を送り出してきました。今年度は 259 名の新入生を迎え、現在 744 名の生徒が在籍しています。四季折々、様々な鳥が集い季節の花々が彩を添えてくれる豊かな自然環境の中、「自立と連帯」「信義と友愛」を校訓として、「自立した一人の人間、また、社会の一員として、よりよい社会づくりに貢献できる、人間力あふれる人材の育成」を目標に日々の教育活動を進めています。

《インクルーシブ教育実践推進校》

平成 28 年には県立高校改革第 1 期におけるインクルーシブ教育実践推進校パイロット校の指定を受け、共生社会の実現を目指して、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育を推進しています。フロントゼロ、リソースルームの整備、ティームティーチングや習熟度別授業の展開など、教育活動のユニバーサルデザイン化や相互理解を深める教育の実践に努めています。

《校章》

厚木市の花「さつき」をデザインしたものです。中央の太陽は栄光と希望に輝く若人の象徴であり、5 枚の花弁とペンの組み合わせは、5 つの教育方針の実践を通して、厚木森の里の大地に両脚をふまえ、心身共にたくましく、調和のとれた、実践力のある人間の育成を表現しています。



2 P T A 活動紹介

厚木西高等学校 P T A は、本部、広報委員会、成人委員会、環境整備委員会、交通安全委員会で構成され、生徒のみなさんが安心して充実した高校生活を送れるよう、日々活動に取り組んでいます。また、西翔祭文化の部では、委員会ごとに特色あるブースを出展し、学校行事を盛り上げています。

□ 本部

毎月の運営委員会の準備・進行を担当。学校と各委員会との連絡・調整を担っています。

□ 広報委員会

学校行事取材し、年 2 回広報紙を発行。広報紙を通じて、学校の様子を保護者の皆さまにお届けしています。

□ 環境整備委員会

花植えや除草作業を年 3 回実施。快適で美しい学校環境づくりに貢献しています。

□ 成人委員会

会員の研修活動を企画・運営。今年度は 7 月に「ステンドグラス教室」を開催。今後も様々な企画を予定しています。

□ 交通安全委員会

登校指導や自転車点検を実施。生徒の安全な登下校を支えています。

3 交通安全の活動について

自転車通学の多い本校では、事故の報告を耳にすることも多く、今の3年生が1年生の時は、入学して数か月でこれまでの事故報告をはるかに上回る数の報告がありました。

今回の発表に向けて私たちは、「自転車の事故を防ぐには？快適な通学とは？」を考えてみました。そこで子どもたちに「通学路のどこで事故がおこるのか」「その時の状況は」「何年生か」などいくつかの項目でアンケートをとりました。その集計結果から見えてきたもの、交通安全委員会で行っている「全校生徒対象の自転車点検」「登校指導」の活動を含めて、通学する生徒とその保護者、地域に向けて、これからどのように取り組んでいく事がよりよい学校生活につながるのかをまとめたものをお伝えします。

タイトル 「講演

講演者 松島 斉 氏 （日本ペップトーク普及協会認定講師）

講演テーマ 『ペップトーク』

～親・教師として知っておきたい やる気を引き出す言葉の力～

1 はじめに

誰かに相談を受けたり、誰かを心から応援したい時、あなたはその相手にどんな言葉がけをしますか？考えてみれば、私達は人の励まし方を習う機会があまりないように思いませんか？人を励ますためには、まず自分の心を元気で満たすこと、そして相手を思いやり受け止めることで生まれる信頼関係を大切にすることが、とても大事です。世の中の情報化や多様化、グローバル化が一段と進み、人と人とのコミュニケーションづくりもますます複雑且つ重要になってきています。そんな時代であるからこそ、私たち講師一同ペップトークを通じてこれからの時代のコミュニケーションづくりの在り方をお伝えすることで、皆さんの明るい未来づくりのお手伝いをさせていただくことができればとても幸いです。

2 講演

PEPという単語には、活気、元気、活力、気力、エネルギーという意味があり、講演のテーマ「ペップトーク」とは、スポーツの試合前などに監督やコーチが選手を励ますための、短く分かりやすいポジティブな心に響く激励のメッセージのことです。

講演では 2023 年の WBC 決勝アメリカ戦の前に大谷翔平選手がロッカールームで話したスピーチを例にペップトークの具体的な手法（4つのステップやポジティブな言葉がけなど）について教えていただきました。

ステップ1 受容

「僕からは 1 個だけ、憧れるのをやめましょう ○○選手がいたり ○○選手がいたりするけど…」まず冒頭で、大リーグの有名選手に憧れてしまうというチームメイトの気持ちを受容しています。

ステップ2 承認

「僕らは今日超えるために、やっぱトップになるために来た」とこれまでがんばってきた努力を承認しています。

ステップ3 行動

「今日1日だけは彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけ考えて行きましょう」と具体的にどう行動すべきか伝えています。

ステップ4 激励

「さあ行こう！」とこれから戦いに出るチームメイトを激励しています。

このように、大谷選手のスピーチがペップトークの要素（受容→承認→行動→激励）をすべて満たす完璧なものだったことを説明いただきました。だからこそ、人々の心にも名言として残っているのだと思います。

さらに松島先生ご自身のバレーボール監督時代のお話も聞かせていただき、ペップトークの手法を学びました。最初から4つすべてを言うのはむずかしいかもしれませんが、受容と承認を使うだけでも、子どもの心は満たされるのかもしれない。

ステップ2につながる「とらえ方変換」(ex.相手が強い→練習成果を見せるチャンス、口うるさい→よく気が付くなど)や ステップ3につながる「〇〇してほしい変換」(ex.嘘をつくな→正直に話そう、さぼるな→しっかりやろうなど)についても会場の皆さんと考えました。

ペップトークは、スポーツ界での決戦の前や会社内での大きなプレゼンの前などで活用されています。遅刻をした生徒や門限を破った子供に対してなど、今回の講演を通して、学校や家庭でも役立つシーンが多くあります。「言葉の力」を学ぶことができ、たいへん有意義な講演をいただきました。

相模原地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会相模原地区協議会

後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和7年10月25日(土) 12:30~16:00

2 会 場 相模原南市民ホール

3 参加者数 229名

4 日 程 (次第)

(1) オープニングセレモニー

神奈川総合産業高等学校 ジャズバンド部

(2) 開 会 式

①開会の言葉

②主催者挨拶

③地区学校長会議会長挨拶

④来賓紹介及び挨拶

(3) 表 彰

PTA活動部門、広報紙部門、生徒活動部門

(4) 活動披露

相模田名高等学校 茶道部

(5) 研究発表

①研究発表Ⅰ

テーマ「GO!GO!かみなん~なんだばんだばんだ

~かみなんとパンダとPTA(わたし)たち」

発 表 上溝南高等学校

②質疑応答

③助言者講評

④研究発表Ⅱ

テーマ「創立114年。歴史と伝統を大切に~地域と繋がる上溝高校~」

発 表 上溝高等学校

⑤質疑応答

⑥助言者講評

(6) 講 演

講 師 アイリッシュハープ奏者 永山 友美子 氏

演 題 「愛と優しさで人は育つ」

(7) 閉 会 式

①閉会の言葉

タイトル 事例発表Ⅰ

講演者 長谷川、天野、山口、伊従、大貫、浜橋、竹内、潟山、湯田、菅原
学校名 上溝南高等学校
テーマ 「GO!GO!かみなん!～なんだばんだばんだ

～かみなんとパンダとPTA(わたし)たち」



1 はじめに

神奈川県立上溝南高等学校は、今年で創立50周年を迎えました。代々受け継がれてきた取り組みや想いを紡いでいくことをテーマに発表いたします。

2 学校紹介

相模嶺の山並みを遥かに望み、相模川の豊かな大河に寄り添われ、相模野の大地に抱かれた本校は、昭和51年4月に開校しました。令和7年度は創立50周年を迎える節目の年となり、記念事業プロジェクトとして、本校卒業生である映画監督・飯塚俊光氏監修によるオリジナル記念動画が制作されました。

3 活発な部活動

上南は、部活動がとても盛んです！ソフトテニス部は4年連続関東大会出場、今年は全国大会出場。男子バスケットボール部、ハンドボール部、陸上競技部も近年関東大会へ出場しています。生物探究部は、昨年ホトケドジョウの保全活動を全国大会で発表し、林野庁長官賞受賞しました。吹奏楽部は、昨年相模原吹奏楽コンクール金賞、県大会へ出場し銀賞を受賞しました。生徒自身が夢中になれることを尊重し、自主性・自立性・社会性を育てています。



4 PTA活動紹介

私たち上溝南高校PTAは、子どもたちのかみなんライフがより素敵な思い出になるよう先生と連携を取り、お手伝いしています。学校行事への参加は、委員全体に参加協力を募り、子供たちの姿を間近で見ることができ楽しく活動しています。

「上溝南高校のPTA活動の概要」



上溝南高校のPTAは、本部と5つの委員会で構成されています。本部、学年委員会、成人教育委員会、環境整備委員会、交通安全委員会、広報委員会。1学年9クラス、各クラスから1名ずつ各委員会の役員を選出し、本部役員は学年全体からの選出になります。役員総勢148名で成り立っています。

《本部》

- ・毎月の運営委員会の運営
- ・学校行事の支援



(球技大会や体育祭でのドリンク提供、文化祭での出店、ふれあい活動など)

- ・校外活動への参加(県高P連大会など)

《成人教育委員会》

- ・講習会の企画・運営
- ・上南祭にて手作り品の販売
- ・研修旅行の企画・運営



P T Aのみなさんの親睦を図ることを目的に、上記の3つの活動で係に分かれ企画運営しています。昨年は講習会では講師の先生を招いて『アーティフィシャルフラワークラフト講座』を、研修旅行では劇団四季「アナと雪の女王」観劇ツアーをしました。



《学年委員会》

- ・学年学級懇談会司会進行のお手伝い
- ・大学受験に向けた保護者の心得講座を開催
- ・上南祭での饅頭、パンの販売
- ・各委員会の役員決め



《広報委員会》

- ・学校行事での写真撮影（年間約5回）
- ・広報誌”かみなん”発行に向け編集作業
- ・文化祭への参加（広報誌の展示やスライドショーなど）

広報活動に積極的に参加して子供たちの楽しんでいる姿を間近にみたり、写真を撮ったり広報誌発行に向け皆で助け合いながら楽しく活動しています。



《交通安全委員会》

【各学年年1回の自転車点検】

自転車通学の子どもと共に、自転車点検を行います。

※ブレーキ、ベル、反射板、上南シール、ライト等

【年2回の交通安全デーへの協力】

地域で設定されている、交通安全デーへの協力。登校する子ども達への見守りと声掛けを行っています。

【上南祭への参加】

学校文化祭にてお楽しみ企画担当

※近年では橋本自動車学校協力のもと、自転車シミュレータ体験教室、ヨーヨーすくい、フォトスポット、Quick Armを設置。毎年とても好評です。大切な子ども達の安全を守る活動を、子ども達と直接触れ合いながら、楽しく参加・活動しています。



《環境整備委員会》

- ・春夏秋冬の年4回の花壇の植え替え作業
 - ・文化祭でのドリンク販売
- 花壇にもお喋りにも花の咲く楽しい委員会です。



5 PTAの1年

【4月】入学式当日に役員決め

入学式終了後、各クラスに分かれ選出するため、現役員は事前に打ち合わせと準備を行います。



【5月】PTA総会・部活動顕彰

総会に先立ちまして、活躍している部活動の顕彰を行っています。今年度は、水泳部とソフトテニス部を顕彰いたしました。総会終盤の退任者代表のあいさつは、3年間の想いが溢れます。節目となる総会は、始まりと終わりの大切な一日となります。



【7月】球技大会 ドリンク提供

ここから私たち上南PTAと生徒たちとの1年の中でも濃い3か月が始まります。夏休み直前の2日間、グラウンドと体育館前に分かれ、冷たく冷やした飲み物を提供します。



【8月】体育祭 ドリンク提供

全校生徒が参加するため、外部の体育館にて開催されます。場所が違っても生徒たちは率先して飲み物の運搬を手伝ってくれたり、飲んだあとには「ありがとうございます!」と言ってくれます。外部の体育館は冷房が効いていますが、買い足しにいくこともあるほど大盛況です。生徒たちと触れ合える時間は、私たちの楽しみでもあります。



【9月】文化祭 それぞれの委員会で出店

＜本部＞おにぎり販売

☆1個100円 1日700個 完売!



【10月】ふれあい活動

オープンスクール前に学校敷地内の清掃、除草作業を行います。



【2月】生徒会との交流会

生徒会の生徒とPTA役員が対面で開催します。PTAとしての関わりで、何ができるか、何をしたいかを話す機会です。



【3月】球技大会

3年生卒業後なので、1・2年生のクラス毎に準備をします。当日はペットボトル飲料を配布します。



【環境整備委員会の取り組み】

神奈川県では9月が認知症月間とされ、相模原市では認知症への理解を深めるための普及啓発のイベントが行われます。認知症啓発のシンボルカラーである「オレンジ」色の花を咲かせる活動でオレンジガーデニングプロジェクトに参加しました。



【令和6年限定】

上溝南高校は今年で創立50周年記念プロジェクトの映画制作チームが来校する際にも、得意のドリンク提供でおもてなしを行いました。





タイトル 事例発表Ⅱ

講演者 関島・宮崎・三秋・西田・安斎・西村・松岡・
鈴木・吉田

学校名 上溝高等学校

テーマ 『創立 114 年！！歴史と伝統を大切に～地域と繋がる上溝高校～』



1. はじめに

私たち上溝高等学校PTAは、創立 114 年という長い歴史を持つ学校の、魅力や地域との繋がりをテーマに上溝高校の特色やそれぞれの委員会の活動を発表いたします。

2. 学校紹介

1911 年（明治 44 年）に鳩川農業学校として設立され、1923 年（大正 12 年）には女学校となりましたが、1950 年（昭和 25 年）に男女共学制となり、神奈川県立上溝高等学校と改称されました。

鳩川農業学校時代



女学校の正門



2015 年新校舎設立



公立高校には珍しく本校には食堂があり、お弁当だけでなく定食、デザートも販売しています。部活動も盛んで、運動部、文化部、それぞれに熱心に活動しています。

弓道場が平成 30 年度に完成し、本格的な練習環境が整っています。また児童文化部があり、定期的に地域の保育園で人形劇や紙芝居を披露しています。



3. P T A紹介

本校のP T Aは5つの委員会（学年委員会・広報委員会・交通委員会・厚生委員会・成人委員会）と本部役員会で構成されています。

各委員会の紹介をします。

学年委員会

学年費の会計と卒業記念品贈呈の取りまとめを実施しています。昨年度はモバイルバッテリーを贈りました。

今年度は、文化祭で2日間、本部役員と一緒にパン、おにぎり、飲み物を販売しました。

今後も各イベントにおいて、本部役員と協力して活動をしていきたいと考えています。



広報委員会

体育祭や文化祭での写真撮影を実施、年2回の広報誌「上溝」を発行しています。

2024 年度には高P連の広報誌部門で優秀賞を受賞しました。

広報誌では載せきれない素敵な写真が沢山あるので、今後は文化祭でスライドショーにして写真を公開していきたいと考えています。



交通委員会

活動は、登校時の交通指導、文化祭時の駐輪場誘導・整備です。交通安全対策会議、交通安全高校生・P T A大会に参加しています。

令和8年4月から道路交通法が改正されるので、生徒等へ内容を周知し理解を深めてもらい、交通安全への一助になればと考えます。事故なく安全に登下校してもらえよう、見守ります。



厚生委員会

毎月、近隣にあるリバーサイド田名ホームにてシーツやふとんカバーを取り換える、リネン交換を実施しています。職員の方と一緒になので、毎回スムーズに行えます。

今後は、本部役員と協力して、各イベントにおいても活動していきたいと考えています。



成人委員会

先生や保護者を対象に講習会や鑑賞会、バスツアーを実施しています。今年度は、レジン小物作りを実施しました。参加者は作り方を聞き合ったり、完成した作品を見せ合ったり、楽しく充実したコミュニケーションの場となりました。バスツアーでは、体験談を家庭に持ち帰り、家族だんらの場となりました。

興味があることに気軽に参加できる企画を盛り込んでいます。今後、ミュージカルやまだ行った事のない場所を検討していきます。



本部役員会

年8回、役員会を開催し、学校や地域の方々、各PTA委員会とのパイプ役となり、生徒のより良い学校生活のために活動しています。

体育祭ではペットボトル飲料の配付、文化祭ではパン、おにぎり、飲み物の販売を実施しました。その中で生徒の笑顔を目の当たりにできることは、保護者にとって嬉しい瞬間です。来年度の体育祭では、生徒に冷たい飲料を提供できるよう、各委員会と協力してジャグを使うことを検討しています。



4. 地域との繋がり

上溝高等学校があるこの地域には「六校会」といって、「上溝」と名のつく上溝小学校、中学校、高校と、上溝南小学校、中学校、高校の6校からなる集まりがあります。

六校会では各PTAが地域の情報交換や見守りを実施して、毎年5月には上溝中学校の敷地内にある茶畑で茶摘みを行っています。



また、生徒は近隣の社会福祉施設を訪問して利用者との交流や、こども食堂などボランティア活動なども積極的に行っています。近くにある上溝小学校とは、年1回の交流会を開いてクラブ・部活動を通して交流を深めています。



5. まとめ

上溝高等学校は伝統校ならではの魅力として、卒業生の会の「鳩友会」、PTAのOB・OG会の「なでしこ会」があり、今でも文化祭で、バザーの開催や飲み物販売等の活動が続いています。

PTA活動においては、活動の意義や目的の見直しを行い、『できるときに、できることを、できる範囲で活動する』スリム化を目指しています。

生徒をはじめ、先生や保護者、地域の方々と楽しみながらみんなで協力をして、今後も『歴史、伝統、地域のつながり』をずっと大事にしていきます。

私たち上溝高等学校PTAは、この想いを胸にこれからも挑戦し続けていきます！

講演

講演者 アイリッシュハーブ奏者 永山 友美子 氏

講演テーマ「愛と優しさで人は育つ」

1 永山友美子氏 プロフィール

オペレッタ作家・指導者・アイリッシュハーブ演奏、埼玉純真短期大学客員教授。

ボランティアでのアイリッシュハーブの演奏・講演を続けてきた功績により青島幸男東京都知事より感謝状を受ける。また、タイ王国ガラヤニー王女殿下午餐会にて演奏するなど多方面で活動。

現在は自宅にて音楽教室を主宰するほか、全国各地の学校、病院、障がい者施設、高齢者施設等で演奏・講演を行っている。

2 アイリッシュハーブについて

アイリッシュハーブは、アイルランドで発展した比較的小型な軽量ハーブ。足元のペダルではなく弦の各々についているレバーを手動で操作して半音を調整する。素朴で優しい音色が特徴。アイルランドの伝統音楽の他、ヒーリング音楽、クラシック、ジャズなど幅広いジャンルで演奏される。大きさは140～160cm台のものから100cm未満のものまで種類が豊富。

3 講演の概要

講演は、自身のこと、演奏・講演活動でのエピソード、アイリッシュハーブについて笑いと涙を交えて語り、アイリッシュハーブの演奏を交えながら、「夢」「愛情」「感謝の心を伝える」「家庭」「家族」「命」などの大切さを伝えるものでした。

4 講演内容 (【 】はハーブ演奏曲)

夢を見つけたら少し努力をしてください。夢は自分でつかむもの、子供に押し付けるものでは

なく自分自身でかなえてください。

あなたの心の中にある美しい思いを美しい言葉に乗せて相手に伝えてください。いっぱいほめてあげてください。ちゃんとほめるということはちゃんと叱るということと同じ根っこ。どうぞ真剣に向き合ってください。

【スコットランドの釣鐘草】

正しいことを正しいと言うことはとても勇気のいることです。皆さんのお子さんはそれを毎日やっているのです。とても勇気のいることで、これがわかっただけでも今日は儲けものです。

【埴生の宿】

どんな粗末なところでも我が家が一番であるというのがこの曲です。

【赤とんぼ】、【秋桜（コスモス）】

音楽は万人に伝わるもの。人間は幸せになるために生まれてきたんですよ。泣いたり笑ったり当たり前の感情表現ができる我々は幸せです。あなたの大切な人はちゃんと泣いて怒っていますか。わが子の良いところ悪いところをそっくりそのまま受け入れるのはそんなに難しいことでしょうか。

【千の風になって】

大好きな人がいたら自分も大好きになれる。今を大切に、あなたがどんなに好きになっても必ずお別れがくるのですから。私たちは子どもたちを正しく導く責任がある。愛情は金と物で買えません。

【涙そうそう】

伝えるとは自分の心から相手の心にちゃんと届けること。子どもは親のいう通りには育ちません。あなたのする通りに育ちます。

最後に、葉祥明さんの「母親というものは」の朗読で締めくくられました。

「母親というものは」

母親というものは 無欲なものです 我が子がどんなに偉くなるよりも どんなにお金持ちになるよりも 毎日元気でいてくれることを 心の底から願います どんな高価な贈り物より 我が子の優しいひと言で 十分過ぎる程幸せになれる母親というものは 実に本当に無欲なものです だから 母親を泣かすのは この世で一番いけないことなのです

5 まとめ

会場の参加者の多くが涙を流し、心が洗われ、忙しい毎日で忘れがちになっているけれども、本当は一番大切なことを取り戻すことができた、素晴らしい講演でした。

地区大会が終わっても余韻が続き、参加者のすがすがしい笑顔が印象的でした。

令和7年度 第54回 神奈川県立高等学校PTA連合会 専門教育部会大会

- 1 日 時 令和7年11月8日(土) 10:15 ～ 11:30 (受付 10:00～)
- 2 会 場 県立神奈川工業高等学校 (横浜市神奈川区平川町19-1)
- 3 大会テーマ 『 夢にはばたけ未来のスペシャリストたち ～触れてみよう専門高校 』
- 4 時 程

受付 10:00 ～ 10:15
 開会式 10:15 ～ 10:45
 見学・体験 10:45 ～ 11:30
 ※見学・体験後は随時解散となります。閉会式は行いません。
- 5 開会式 次第 (司会 県立平塚農商高等学校 学校書記 清水 悦子)

開会のことば	県立平塚農商高等学校	PTA副会長	高橋 枝理子
主管校会長挨拶	県立平塚農商高等学校	PTA会長	小西 恵子
主管校校長挨拶	県立平塚農商高等学校	校長	河合 俊直
高P連挨拶	県立高等学校PTA連合会	会長	内田 裕美
来賓挨拶	県立学校長会議専門学科部会	部会長	加来 功
体験・日程説明	県立平塚農商高等学校	PTA副会長	百武 佐知子
- 6 見学・体験

産業教育フェアの各専門高校のブースの見学及び体験

<同時開催>

横浜STEAM EXPOカンファレンス
 かながわ未来のしごとフェスタ2025
 中学生ロボテックチャレンジ2025
 神奈川県立高等学校 定時制・通信制合同学校説明会
 神奈川県ゆかりの特定失踪者パネル展
 2027年国際園芸博覧会

◆参考資料◆

高 P 連

県教育委員会

令和7年度 高P連組織概要

令和7年10月現在

- 1 名称と事務所所在地
- 名称神奈川県立高等学校PTA連合会
- 所在地〒231-0023 横浜市中区山下町2番地
- 産業貿易センタービル9F
- TEL045-641-0337
- FAX045-641-0338
- E-mailkana.koupren@kanagawa-koupren.org
- 高P連HPhttps://kanagawa-koupren.jp

2 組織構成 (10地区)

地区	各校PTA			令和7年度会員数	令和7年度 地区協議会会長校
	全日制	定時制 通信制	合計		
横浜北	17		17	16,639	白山高等学校
横浜中	15	1	16	13,012	光陵高等学校
横浜南	7	1	8	5,994	横浜栄高等学校
川崎	14	(1)	14 (1)	11,992	向の岡工業高等学校
横三	9	1	10	6,405	追浜高等学校
湘鎌	12	2	14	10,763	藤沢工科高等学校
平秦	12	1 (1)	13 (1)	10,085	秦野総合高等学校
県西	8	1 (1)	9 (1)	4,992	西湘高等学校
県央	17	2	19	15,498	綾瀬高等学校
相模原	13	(1)	13 (1)	11,423	相模原弥栄高等学校
合計	124	9 (4)	133 (4)	106,803	

※定時制・通信制の欄にある () の数は全定同一PTA組織の学校数。

- 3 役員と理事
- (1) 役員 : 会長 1、副会長 4、会計 2、総務 3、監事 2
- (2) 理事 : 地区協議会会長 10

- 4 賛助会員 (団体) : 50音順
- 株式会社トキワヤ 全力丸株式会社 東京海上日動火災保険株式会社
- 東京工芸大学

- 5 賛助会員 (個人)
- 元役員など4名

令和7年度 事業概要

- 1 定期総会
令和7年6月7日（土）
会場：逗子文化プラザホール なぎさホール ⇒ 会場開催
- 2 大会
◇ 研修大会
7月5日（土）
会場：藤沢市民会館 大ホール ⇒ 会場開催

◇ 第63回神奈川県立高等学校PTA連合会大会（県大会） 11月29日（土）
会場：伊勢原市民文化会館 大ホール ⇒ 会場参加、アーカイブ配信

◇ 地区大会 ⇒ 10地区で開催
◇ 専門教育部会大会

(その他大会)
◇ 第71回関東地区高P連大会埼玉大会 7月11日（金）～12日（土）
会場：大宮ソニックシティ ⇒ 会場開催

◇ 第74回全国高P連大会三重大会 8月21日（木）～22日（金）
会場：日硝ハイウエアアリーナ 他 ⇒ 会場参加、オンライン併用開催
- 3 広報事業
◇ 会報発行 第134号（令和8年2月発行予定）
◇ ホームページの運営
◇ 第49回広報紙コンクール表彰式 11月29日（土）
第9回広報紙「表紙」コンクール表彰式
会場：伊勢原市民文化会館
- 4 健全育成事業
◇ 講演会 12月20日（土）
演題：「高校生の“食”が未来をつくる
：成長期の栄養と自立を支える家庭の関わり」
講師：県立健康福祉大学 健康福祉学部 栄養学科 准教授 駿藤 晶子氏
- 5 交通安全事業
◇ 交通安全運動連絡会 (第1回) 7月26日（土）
(第2回) 令和8年1月21日（水）
◇ 地区交通安全大会 ⇒ 10地区（会場やオンラインでの開催等）
◇ 県立高等学校等交通安全教育推進協議会との連携及び事業提携
- 6 その他
◇ 役員会 ①月例 ②臨時
◇ 理事会 ①月例 ②臨時
◇ 委員会 随時
◇ 理事校・交通担当校予定者説明会 5月24日（土）

令和7年度 地区大会一覧表

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会地区協議会
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

地区 担当校	日時 参加人数	会場	実施内容
横浜北 白山	10月11日(土) 13:00～16:10 119名	神奈川県立白山高等学校 視聴覚室	『デカとワルの「こころと栄養の話」』 講演：講師：一般社団法人 Japan Holistic Fellows 代表理事 串田 大我 氏 理事 阿部 佑介 氏 発表：市ケ尾高等学校PTA 発表：川和高等学校PTA
横浜中 光陵	10月18日(土) 13:00～16:00 158名	男女共同参画センター横浜 ホール	『家庭で伝えていく命の話 ～世界の性教育のスタンダード包括的性教育とは～』 講演：講師：助産師 高野 しのぶ 氏 発表：横浜緑園高等学校PTA 発表：希望ヶ丘高等学校PTA
横浜南 横浜栄	10月18日(土) 13:30～16:05 60名	神奈川県立地球市民 かながわプラザ (あーすぶらざ)	講演：『災害に立ち向かう知恵 ～子どもたちの未来を守るために親ができること～』 講師：元宮城県石巻西高等学校長・防災士 齋藤 幸男 氏 発表：横浜立野高等学校PTA
川 崎 向の岡工業	10月23日(木) 13:30～16:30 148名	川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)	講演：『未来の防災人財のつくりかた ～守られる人から守る人へ～』 講師：NPO法人 日本防災士会 常務理事 山本 賢一郎 氏 発表：生田東高等学校PTA 発表：百合丘高等学校PTA
横 三 追浜	10月16日(木) 13:30～16:30 78名	横須賀市文化会館 中ホール	『関東での地震への備え』 講演：講師：国立研究開発法人海洋研究開発機構・海域地震火山部門 地震津波予測研究開発センター センター長 堀 高峰 氏 発表：横須賀高等学校PTA
湘 鎌 藤沢工科	10月14日(火) 13:00～16:00 103名	茅ヶ崎市民文化会館 小ホール	講演：『大人が輝けば、子どもも未来も輝く メイクセラピーから学ぶポジティブ印象術』 講師：株式会社コンシヤスインターナショナル代表取締役 一般社団法人メイクセラピストジャパン 祝 結美子 氏 発表：茅ヶ崎西浜高等学校PTA
平 秦 秦野総合	10月1日(水) 13:30～17:00 286名	ひらしん平塚文化芸術ホール 大ホール	『親子で描くキャリアの地図 ～親ができるキャリアサポート～』 講演：講師：神奈川工科大学学長補佐 工学部応用化学生物学科 教授 小池 あゆみ 氏 発表：平塚湘風高等学校PTA 発表：平塚中等教育学校PTA
県 西 西湘	10月4日(土) 12:25～15:50 168名	南足柄市文化会館 大ホール	講演：『しくじり先生～倒産、自己破産、離婚、自殺未遂からの逆転劇』 講師：お笑い芸人 やせ騎士(ナイト) 氏 発表：吉田島高等学校PTA
県 央 綾瀬	10月22日(水) 13:00～16:00 130名	綾瀬市オーエンス文化会館 小ホール	『ベップトーク ～親・教師として知っておきたい やる気を引き出す言葉の力～』 講演：講師：松島 斉 氏 発表：座間総合高等学校PTA 発表：厚木西高等学校PTA
相模原 相模原弥栄	10月25日(土) 12:30～16:00 229名	相模原南市民ホール	講演：『愛と優しさで人は育つ』 講師：アイリッシュハープ奏者 永山 友美子 氏 発表：上溝南高等学校PTA 発表：上溝高等学校PTA

令和7年度 専門教育部会大会

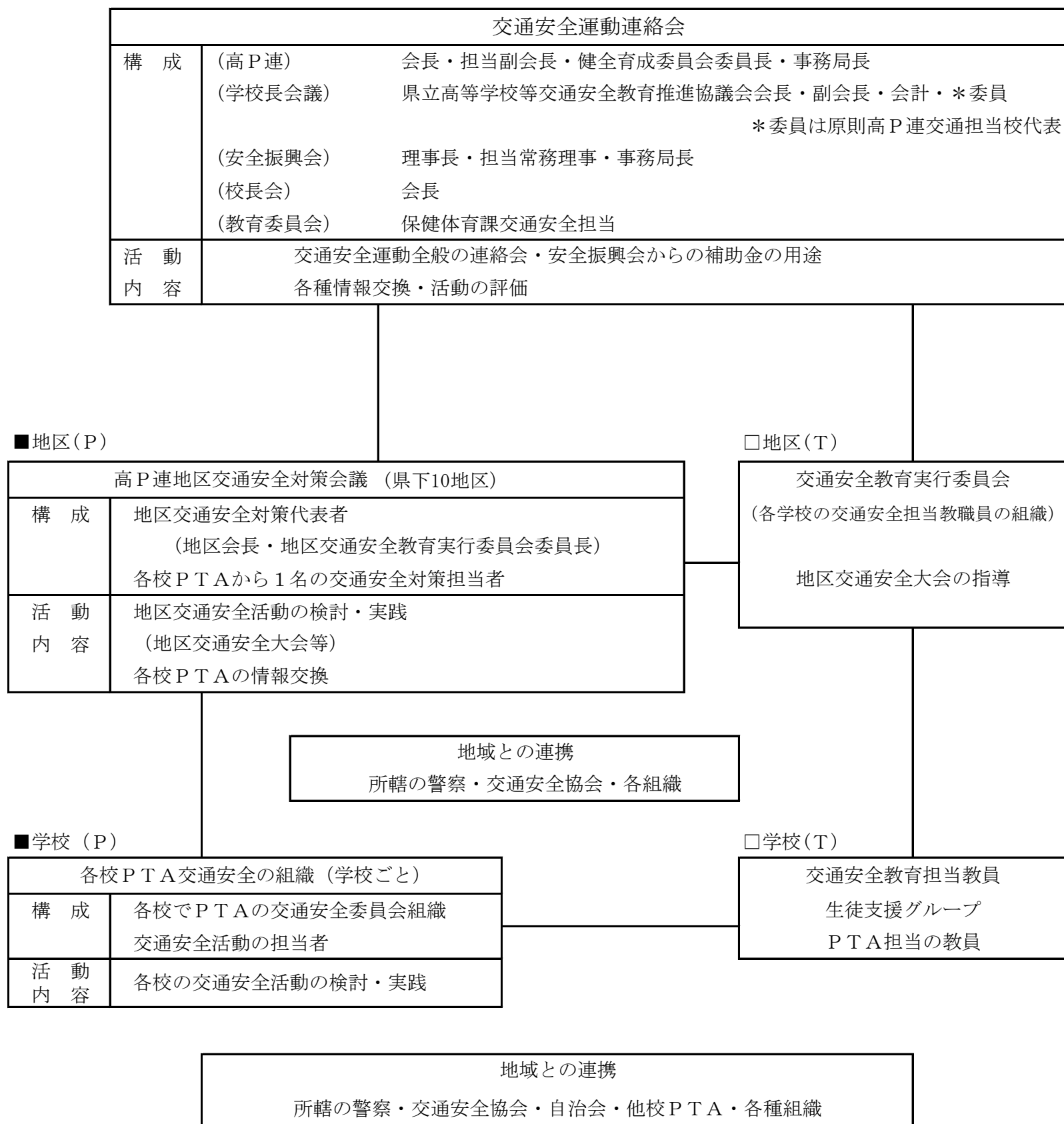
専 門 平塚農商	11月8日(土) 10:15～11:30 61名	神奈川県立 神奈川工業高等学校	テーマ：『夢にはばたけ未来のスペシャリストたち ～触れてみよう専門高校～』 内容：①開会の言葉 ②主管校会長あいさつ ③主管校校長あいさつ ④高P連あいさつ ⑤来賓あいさつ ⑥日程説明 ⑦産業教育フェア各専門高校のブースの見学および体験
-----------------	--	--------------------	---

令和 7 年度 地区交通安全大会 一覧表

主催 神奈川県教育委員会
県立高等学校等交通安全教育推進協議会
神奈川県立高等学校 P T A 連合会地区協議会
協賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
後援 神奈川県立学校長会

地 区 担当校	日 時 参加者数	会 場・形 式	実 施 内 容
横浜北 横浜翠嵐	11月4日(火) 12月19日(金)	オンライン形式	テーマ：『 語り合おう、私たちの交通安全 』 高校生： 鶴見高校、新羽高校の取り組み
横浜中 二俣川	11月27日(木) 14:00～16:00 122名	県立よこはま看護 専門学校 講堂	テーマ：『 高校生が考える交通安全 』 高校生： 高校生によるグループディスカッション 「歩きスマホ・イヤホンの危険性について」 「自転車乗車用ヘルメットの着用促進について」 「交通ルールの順守(信号無視の危険性)について」 「登下校中の公共交通機関の利用マナーについて」
横浜南 釜利谷	11月20日(木) 13:30～15:30 70名	地球市民かながわプラザ プラザホール	テーマ：『 交通事故 事故の責任 自己責任 』 高校生： 釜利谷高校、横浜国際高校、柏陽高校、横浜栄高校によるスライド・動画発表
川 崎 生田東	11月11日(火) 13:20～16:00 192名	川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)	テーマ：『 一寸先は事故 心にブレーキを 』 高校生： 麻生高校、麻生総合高校、生田高校、川崎工科高校、菅高校、住吉高校、 百合丘高校、生田東高校による発表
横 三 横須賀大津	11月7日(金) 14:00～16:00 153名	はまゆう会館	テーマ：『 その通知 命よりも 大事ですか 』 高校生： 各校の発表、「スタートかながわ」推進モデル校活動報告
湘 鎌 寒川	11月17日(月) 13:30～16:00 205名	茅ヶ崎市民文化会館 小ホール	テーマ：『 一つの確認 一つの命 』 高校生： 大船高校、藤沢清流高校、茅ヶ崎北陵高校による発表 P T A： 寒川高校PTA
平 秦 伊勢原	11月19日(水) 13:00～15:00 208名	伊勢原市民文化会館 大ホール	テーマ：『 安全は 正しい理解と 実践で 』 高校生： 平塚秦野地区県立学校交通安全委員会(13校合同)の研究発表 P T A： 大磯高校PTA交通安全委員会
県 西 小田原城北 工業	11月13日(木) 13:30～16:00 85名	南足柄市文化会館 小ホール	テーマ：『 ささやかな心遣いが安全に 』 高校生： 各校生徒による交通安全の取り組み報告 P T A： 各校PTA交通安全担当者による活動報告
県 央 厚木清南	11月10日(月) 13:30～16:00 132名	海老名市文化会館 小ホール	テーマ：『 「また明日」 言える日常 守りたい 』 高校生： 愛川高校、有馬高校、大和高校、大和南高校、海老名高校、厚木王子高校、 中央農業高校、綾瀬西高校、座間高校、大和西高校、大和東高校による発表 P T A： 大和西高校PTA
相模原 麻溝台	11月13日(木) 14:00～16:00 141名	杜のホールはしもと	テーマ：『 「命より大切なものってありますか？」 ～その安全確認が明日をつくる～ 』 高校生： 麻溝台高校、相模原中等教育学校、相模原城山高校による発表 P T A： 麻溝台高校PTA

令和7年度 高P連交通安全対策組織図



県大会講師一覧

敬称略

年度	氏名	職名	演題
平成4	寺田文行	早稲田大学教授	国際化、情報社会に生きるための親の役割と子の生き方
5	内藤健三	大和定住促進センター	外国籍県民と私たち ー心優しく寛大な国際人を目指してー
6	奥村晋	県青少年問題協議委員会	変動する社会の中で、子どもたちとともにどう生きるか
7	小林完吾	アナウンサー	今 親として… 大人として…
8	奥平健一	せりがや病院院長	若者の薬物乱用
9	吉村恭二	横浜YMCA総主事	「今問い直す私たちのあり方」 ーいきぬく力と共感する心をはぐくむためにー
10	尾木直樹	教育評論家	子どもの心、大人の愛 ーアイデンティティの確立求める現代の青年ー
11	宇井治郎	東京純心女子大学教授	最近の青少年の傾向と家庭の役割
12	景山秀人	弁護士	子供の人権と子育てや教育
13	汐見稔幸	東京大学大学院助教授	現代の若者の夢と不安をめぐって
14	諸川春樹	多摩美術大学教授	絵画から読みとる創造と発見
15	鈴木共子	造形作家	息子の命、未来につなぐれ！
16	町沢静夫	医師	現代青年の心の動き ～子どもをめぐる環境～
17	安藤由紀	PEACE暴力トレーニングセンター代表	子どもと同じ目線に立って
18	朴慶南	作家	私以上でもなく、私以下でもない私
19	藤井輝明	鳥取大学大学院教授	今を生きる
20	広瀬久美子	元NHKエグゼクティブアナウンサー	「天使のことば」～生きた言葉づかい～
21	池田香代子	作家・翻訳家	「100人の村、あなたもここに生きています」
22	鎌田敏	こころ元気研究所所長	「こころ元気に、今日から、ここから」
23	白鳥稔	元県教育庁教育部長	「今、人権を考える」～豊かな人権感覚が育てるもの～
24	新井立夫	文教大学准教授	「今、社会に出ていくために子どもに求められていること、それを育むための保護者の役割と関わり方」
25	ヴィヒャルト千佳こ	臨床心理士	「まだ間に合う、親としてできること」 ～これからの社会を生き抜くために～
26	ピーター・フランクフル	数学者・大道芸人	人生を楽しくする方程式 ～高校生を持つ保護者に向けて…～
27	大島武	東京工芸大学教授	コミュニケーション再考～もっと分かり合うために～
28	和田由香	医師	健全育成を考える～スマホ(SNS)の利用を通じて～
29	鈴木寛	文部科学大臣補佐官	変わる高校教育、その中でPTAに期待すること ～家庭教育・地域連携教育の向上を目指して～
30	三浦瑠麗	国際政治学者	グローバル化時代を生き抜く個人と社会
令和元	両角速	東海大学駅伝監督	前に進む力
2	新井紀子	国立情報学研究所 社会共有知研究センター長	人工知能がもたらす人間と社会の未来
3	講演なし		
4	宮澤ミシェル	元サッカー選手	子どもが輝くための子育て ～“ひと”を支える“ひと”になる～
5	パッケンマッケン	タレント	お金にまつわる笑劇的国際交流
6	コウケンテツ	料理研究家	家族で楽しむ食育 ～世界30カ国のキッチンで学んだ大切なこと～

いじめをはじめとする困りごと

○24 時間子ども SOS ダイヤル

いじめに関する問題などさまざまな悩みの相談

TEL:0120-0-78310

【受付時間】毎日 24 時間 【休み】なし

○中高生 SNS 相談@かながわ

LINE による中高生のさまざまな悩みに関する相談

【受付時間】月・水・金 18:00～21:00

令和 7 年 4 月 2 日～7 日、5 月 5 日～9 日、

8 月 25 日～9 月 5 日、令和 8 年 1 月 7 日～12 日は毎日実施

【友だち追加】

[URL:https://lin.ee/b6YVAF](https://lin.ee/b6YVAF)

※友だち追加で相談可能な詳しい日程
や時間が分かります。



不登校・ひきこもりに関すること

○不登校ほっとライン

「学校に行けない」、「行きたくない」など不登校・引きこもりの相談

TEL:0466-81-0185

【受付時間】毎日 8:45～16:45 【休み】年末年始

○かながわ子ども・若者総合相談 LINE

ひきこもり・不登校・非行等の相談

【受付時間】火、木、土 14:00～21:00

【休み】祝休日・年末年始

【友だち追加】アプリを起動してホームの検索窓で

ID「kana-kowaka」と検索して追加。



2025
相談窓口

ひとりで悩まず
まずは相談して
ください。

体罰・セクハラに関すること

○体罰に関する相談窓口

体罰に関する相談

TEL:0466-81-1967

【受付時間】月～金 8:45～12:00 13:00～16:45

【休み】土・日・祝休日・年末年始

○県立学校におけるセクシュアル・ハラスメント に関する相談窓口

セクシュアル・ハラスメントに関する相談

TEL:0466-81-1967

【受付時間】月～金 8:45～12:00 13:00～16:45

【休み】土・日・祝休日・年末年始

いのちをまもる

○いのちのほっとライン@かながわ

「生きるのがつらい」「気分が沈む」など、
こころの健康に関する悩みを LINE で相談

【受付時間】水曜日を除く

17:00～24:00（受付 23:30 まで）

【休み】祝休日・年末年始（令和 6 年度）

【友だち追加】[URL:https://page.line.me/194qtyur](https://page.line.me/194qtyur)

アプリを起動してホームの検索窓で

ID「@inochi2020」と検索して追加。

※友だち追加で相談可能な詳しい日程や時間が分かります。

○横浜いのちの電話 **TEL:045-335-4343**

【受付時間】日～水 8:00～22:00 木金土 8:00～翌 8:00

○川崎いのちの電話 **TEL:044-733-4343**

【受付時間】毎日 24 時間

※共通フリーダイヤル **TEL:0120-783-556**

【受付時間】毎日 16:00～21:00 毎月 10 日は 8:00～翌 11 日 8:00



子どもに関するさまざまな相談

○神奈川県立総合教育センター（総合教育相談）

学校生活や家庭生活に関するさまざまな悩みの相談

TEL:0466-81-0185 【受付時間】毎日 8:45～16:45 【休み】年末年始

児童・生徒の発達に関する相談

○発達教育相談 TEL:0466-84-2210

子どもの発達に関するさまざまな悩みの相談

【受付時間】毎日 8:45～16:45 【休み】年末年始

こころの健康に関する相談

○こころの電話相談 TEL:0120-821-606

こころの病気、生活・仕事に関する悩み、対人関係の悩み、性に関する悩み(性的マイノリティ)等の相談

【受付時間】毎日 24 時間 【休み】年度初めの 4 月 1 日午前 0 時から 4 月 1 日午前 9 時までは休止

○横浜市こころの電話相談 TEL:045-662-3522

【受付時間】月～金 17:00～21:30 土・日・祝日 8:45～21:30

○川崎市こころの電話相談 TEL:044-246-6742

【受付時間】毎日 9:00～21:00 年末年始 9:00～17:00

○相模原市こころのホットライン TEL:042-769-9819

【受付時間】毎日 17:00～22:00 (受付は 21:30 まで) 【休み】年末年始

○横須賀こころの電話 TEL:046-830-5407

【受付時間】月～金 16:00～23:00 (毎月第 2 水曜日は 16:00～翌 6:00) 土・日・祝日 9:00～23:00

人権(虐待・暴力など)に関する相談、子育ての悩みや非行などに関する相談

○子ども・家庭 110 番 TEL:0466-84-7000

子育ての不安、親子関係や家族の悩みなど、子どもにかかわる相談

【受付時間】毎日 9:00～20:00

○横浜市電話児童相談室(横浜市在住の方) TEL:045-260-4152

【受付時間】月～金 9:00～17:30 土 9:00～16:30 【休み】日・祝日・年末年始

○川崎市児童虐待防止センター(川崎市在住の方) TEL:0120-874-124

【受付時間】24 時間 【休み】なし

○相模原市児童相談所(相模原市在住の方) TEL:042-730-3500

【受付時間】月～金 8:30～17:00 【休み】土・日・祝休日・年末年始

○横須賀市児童相談所(横須賀市在住の方) TEL:046-820-2323

【受付時間】月～金 8:30～17:00 【休み】土・日・祝休日・年末年始

○かながわ子ども家庭 110 番相談 LINE

【受付時間】月～土 9:00～21:00 【休み】日・年末年始【友だち追加】URL: <https://lin.ee/MrYNyV2>



○ユーステレホンコーナー(神奈川県警察少年相談・保護センター)TEL:0120-45-7867 045-641-0045

少年の非行問題やいじめ、犯罪被害等に関する相談

【受付時間】月～金 8:30～17:15 【休み】土・日・祝休日・年末年始

○人権・子どもホットライン TEL:0466-84-1616

子ども専用の人権に関わるような悩み相談(通報は大人の方からも受け付けます)

【受付時間】毎日 9:00～20:00 【休み】なし

家族のケアに関する相談

家族などのお世話、介護や看病といったケアのこと。「ケアのことで悩んでいる」、「ケアで忙しく学校生活や進路のことが心配」

「自分の時間が持てない」「だれに相談したらいいかわからない」など、ケアに関するさまざまな相談

○かながわヤングケアラー等相談 LINE

【受付時間】月・火・木・土 14:00～21:00【休み】金・祝休日・年末年始【友だち追加】URL: <https://page.line.me/929qoxco>

○かながわケアラー電話相談 TEL:045-212-0581

【受付時間】水・金 10:00～20:00 日 10:00～16:00【休み】月・火・木・土・祝休日・年末年始



安全振興会 あらまし



- Q 1. 安全振興会設立の趣旨は何ですか。…………… A－2
- Q 2. 設立後の歩みはどうなっていますか。…………… A－2
- Q 3. 運営組織や役員の構成はどうなっていますか。…………… A－3
- Q 4. どんな事業を行っていますか。…………… A－3
- Q 5. 「学校安全の普及充実」事業とは何ですか。…………… A－3
- Q 6. 加入状況と加入方法を教えてください。…………… A－5
- Q 7. 会費はいくらですか。…………… A－5
- Q 8. 見舞金の給付条件は何ですか。…………… A－6
- Q 9. 中学生の時（安全振興会加入前）に負傷し、治療が続いている場合も、
見舞金の請求ができますか。…………… A－6
- Q 10. 見舞金の種類や給付金額について教えてください。…………… A－6
- Q 11. 令和4年度の災害統計等について教えてください。…………… A－7
- Q 12. 見舞金請求の手続きを教えてください。…………… A－8
- Q 13. 見舞金等の請求には、期限がありますか。…………… A－8
- Q 14. 見舞金が給付されなかったり、減額されたりすることがありますか。…………… A－8
- Q 15. 負傷等見舞金について補足してください。…………… A－9
- Q 16. 修学奨励制度について教えてください。…………… A－11

一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター 326号室

電 話 (045)274-8189 FAX (045)274-8190

<http://www.kanagawa-hsanzen.or.jp>

Q1. 安全振興会設立の趣旨は何ですか。

学校管理下の事故による災害に対する共済制度として、日本学校安全会（現在の独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「スポーツ振興センター」））が見舞金や治療費の給付を行っていましたが、その額は社会通念上必ずしも十分とは言えませんでした。死亡や障害などの大きな災害は、本人並びに家族にとって精神的、経済的負担は計り知れないものがあります。また、時には災害をめぐって保護者と学校間あるいは保護者同士で、賠償問題等のトラブルが起きるという不幸な事態に至ることもありました。そこで、災害を受けた生徒や保護者の早急な救済を図るために、県立高等学校PTA連合会（以下、高P連）と県立高等学校長会（以下、校長会）が神奈川県教育委員会の助言を得て昭和52（1977）年に安全振興会の前身となる神奈川県立高等学校災害共済会を設立しました。昭和56（1981）年の財団法人化を経て平成25（2013）年に一般財団法人となり、以降、スポーツ振興センターの給付金の不足を補って保護者の負担を軽減するなど、災害をめぐる様々な問題の解決を図りながら、共済事業を中心に活動しています。利益団体ではありませんので、保険に比べて少額の掛金で高額の見舞金が給付されます。

- ※ スポーツ振興センター見舞給付金の補充
- ※ スポーツ振興センターと安全振興会を合わせて医療費の6割の見舞金が給付されます。（給付には条件があります。）



Q2. 設立後の歩みはどうなっていますか。

昭和52年	6月	県教育委員会の指導を受けながら校長会の協力を得て、高P連の内部組織として「神奈川県立高等学校災害共済会」が発足。
昭和56年	4月	公益法人としての設立が許可され「財団法人神奈川県立高等学校安全振興会」として高P連から独立した組織として発足。発足当時の状況は加入校 130 校（全日制 122 校、定時制8校） 会員数 125,520 人
平成5年	7月	県立全日制高校全 165 校の加入を達成。
平成7年	4月	通信制の加入を認める。
平成8年	4月	県立盲・ろう・養護学校の加入を認める。養護学校3校が初めて加入。
平成18年	6月	県立定時制高校 19 校全校加入を達成。
平成21年	4月	県立中等教育学校の加入を認める。
平成22年	10月	財団創設 30 周年記念式典挙行。
平成24年	4月	神奈川県教育委員会より「PTA・青少年教育団体共済法」に基づく共済事業が認可される。
平成25年	12月	一般財団法人に移行し、団体名称を一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会に変更した。
令和5年	6月	県立通信制高校2校全校加入を達成。
令和7年	6月	加入校 155 校（全日制 131 校、定時制 20 校、通信制 2 校、中等教育学校 2 校） 会員数 112,345 人

Q3. 運営組織や役員の構成はどうなっていますか。

高P連と校長会の現役員とOBが中心となって、評議員会や理事会などを組織して運営しています。
また、財産管理・役員人事・事業内容・年度末会計等については、神奈川県教育委員会の指導監督の下で行っています。

- (1) 評議員 11名（高P連副会長 3名、校長会副会長 1名、学識経験者として高P連OB 3名、校長会OB 4名）
- (2) 理事 理事長以下8名（高P連会長、校長会会長、学識経験者として高P連OB 3名、校長会OB 3名）
- (3) 監事 3名（高P連副会長、校長会副会長、学識経験者として高P連OB）
- (4) 作文コンクール選考委員 6名（学識経験者として校長会OB 6名）

Q4. どんな事業を行っていますか。

安全振興会は、主に次の3つの事業をしています。

1. 見舞金の給付に関すること

学校管理下の災害に対し、各種の見舞金の給付を行っています。

2. 学校安全の普及充実に関すること

災害を未然に防ぐために、生徒の安全意識の向上、安全な生活環境整備のための各種事業を行っています。

3. 修学奨励金の給付に関すること

学資の支弁が困難な生徒に対し、修学奨励金を給付しています。

Q5. 「学校安全の普及充実」事業とは何ですか。

被害者を救済するということも大切ですが、なによりも事故に遭わない、事故を起こさないことが大事です。安全振興会では「学校安全の普及充実」事業として、生徒の安全意識の啓発と向上、及び安全な生活環境の整備をめざして、次のような事業を行っています。

1. 広報活動

(1) 『安全振興会報』の発行

年2回(8月、2月)『安全振興会報』を発行しています。本会の事業内容の紹介や安全に関する情報提供を行っています。

(2) 次年度版『安全振興会のご案内』の発行

毎年12月に最高学年を除く学年の全保護者等と、新入生の保護者向けに次年度版『安全振興会のご案内』を発行し本会の趣旨や事業内容を紹介しています。表紙に高P連の広報紙コンクール安全振興会写真賞に入賞した写真を使用します。

また、この『安全振興会のご案内』は高P連地区大会や県立高等学校等交通安全教育推進協議会と高P連が主催する地区交通安全大会など、さまざまな集会で配付して安全振興会の理解の一助としています。

2. 安全推進月間の実施

11月を安全推進月間に指定し、生徒の安全意識の啓発と向上、及び安全の推進に係る事業を実施しています。

(1) 作文コンクール

県立の高等学校、中等教育学校及び特別支援学校高等部の生徒から、安全又は健康に関する作文を募集し、最優秀賞の2編については、高P連県大会において本人による朗読と、「安全振興会のご案内」、「安全振興会報」の掲載により広く発表しています。

(参考 1) 直近7年間の応募状況

年 度	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
学 校 数	20	17	24	18	14	16	13
応募編数	898	366	1,456	1,223	659	1,154	279

(参考 2) 令和7年度作文コンクール応募校

希望ヶ丘、旭、横浜平沼、横浜栄、麻生総合、菅、藤沢西、伊勢原、吉田島、中央農業、相模原弥栄、神奈川工業（定）、厚木清南（定）

(2) ポスターコンクール

県内の高校生から作文コンクール作品募集と安全推進月間キャンペーン用のポスター原画を募集します。

実施を神奈川県高等学校文化連盟美術・工芸専門部会に委託し本会にて審査をしています。最優秀作品をB1版ポスターに作成し、各学校に配付しています。

令和7年度は15校145作品の応募がありました。

(令和7年度作品。左:安全推進週間、右:作文募集 ⇒)



3. 補助事業

生徒の安全と健康に関わる次の事業に補助金を交付しています。

令和7年度の補助事業交付金は次の通りです。

No.	名 称	対 象 団 体	交付額
1	高P連交通安全運動等健全育成事業	県立高等学校PTA連合会	265 万円
2	高P連安全啓発事業	県立高等学校PTA連合会	81 万円
3	交通安全教育推進運動「スタートかながわ」を中心とした交通安全運動の展開と交通安全教育に係る指導方法の研究	県立学校長会	343 万円
4	高文連安全対策事業	県高等学校文化連盟	40 万円
5	高体連安全対策事業	県高等学校体育連盟	20 万円
6	定時制通信制高校における安全・健康のあり方に関する研究	県立高等学校定時制通信制教頭会	10 万円
7	保健体育部会研究	県高等学校教科研究会保健体育部会	10 万円
8	県立学校養護教諭研修講座・学校保健研究大会	県立高等学校教科研究会養護部会	10 万円

4. 委託事業

学校安全の普及充実のための事業を令和7年度は次の通り委託しています。

安全振興会ポスター原画募集事業（ポスターコンクール）

対 象 団 体 神奈川県高等学校文化連盟 美術・工芸専門部会

委 託 金 15 万円

Q6. 加入状況と加入方法を教えてください。

皆さまにご理解をいただきまして、現在、県立高等学校の全校全課程(全日制131校、定時制20校、通信制2校)及び県立中等教育学校全(2校)にご加入いただいております。

安全振興会への加入は、保護者等が個人で加入手続きを行うのではなく、**学校単位で安全振興会に団体加入**の手続きを行っていただきます。

平成25年度から、PTA・青少年教育団体共済法により共済契約者(PTAの代表者(PTAが組織されていない学校等にあつては、当該学校の長。))は前年度に本会へ共済契約申込の手続きを申請していただくことになりました。これにより当該年度当初から共済期間となります。加えて共済契約者は学校を通して、当該年度6月20日までに、加入・更新届の提出及び会費の納入をお願いします。

Q7. 会費はいくらですか。

会費(年度ごと)は、共済掛金(純掛金+付加共済掛金)と一般会費の合計となります。

学校・課程	会費額	会費内訳		合 計
	共済掛金		一般会費	
	純掛金	付加共済掛金		
高等学校 ※全日制	708円	372円	120円	1,200円
定時制	354円	186円	60円	600円
通信制	106円	56円	18円	180円
中等教育学校	708円	372円	120円	1,200円

※「高等学校」には特別支援学校高等部を含みます。

〔注〕共済掛金の割合については、見直すこともあります。

(使途)

- ・純 掛 金: 見舞金の給付
- ・付加共済掛金: 見舞金給付に係る経費、安全普及啓発事業及びその経費
- ・一 般 会 費: 修学奨励事業、供花料及び共済会計以外の管理費

※ 途中加入の場合は、共済契約期間の終期までの月割計算した共済掛金(純掛金+共済掛金)と一般会費(年額)の合計額となります。

※ 途中退会の場合は、当該共済契約期間終期までの月割計算した共済掛金(純掛金+共済掛金)から手数料(500円)を差し引いた額を返還します。ただし返還額が100円未満の場合は返還しません。一般会費については返還できませんので予めご了承ください。

例えば全日制の生徒さんなら年間1,200円の会費で、種々の見舞金等の給付対象となります。
ひと月分に換算するとなんと100円です！



Q8. 見舞金の給付条件は何ですか。

スポーツ振興センター法施行令の規定に準じて、学校管理下で生徒に死亡、障害、負傷等の災害が発生したとき、安全振興会から会員(保護者等)に見舞金を給付します。「学校管理下」とは、次のような場合です。

- (1) 生徒が、法令の規定により学校が編成した教育課程に基づく授業を受けている場合。
- (2) 生徒が、学校の教育課程に基づいて行われる課外指導を受けている場合。
- (3) 生徒が、休憩時間中に学校にある場合。その他校長の指示または承認に基づいて学校にある場合。
- (4) 生徒が、通常の経路および方法により通学する場合。
- (5) (1)から(4)の場合に準ずる場合として、文部科学省令で定める場合。

※ スポーツ振興センターの給付対象であることが必要です。

※ 負傷等見舞金は、同一災害に対するセンター給付額の合計 15,000 円(窓口負担なしの場合は 3,750 円)以上が対象となります。令和8年4月1日以降の災害からは、同一災害に対する医療費(外来・入院)の合計37,500円以上が対象となります。

Q9. 中学生の時(安全振興会加入前)に負傷し、治療が続いている場合も、見舞金の請求ができますか。

できません。高校入学後(安全振興会加入後)の災害が対象です。スポーツ振興センターの給付が継続していても、高校入学前(入会前)に発生した災害は契約外のため見舞金給付の対象とはなりません。

Q10. 見舞金の種類や給付金額について教えてください。

スポーツ振興センターの給付額を基準に給付します。見舞金の種類と金額は次の通りです。

- (1) **死亡見舞金** スポーツ振興センター給付額の **5 割で、最高額 1,500 万円**
- (2) **障害見舞金** 治療が終わっても身体に障害が残った場合に支払われる見舞金です。障害の程度により1級から14級まであり、スポーツ振興センター給付額の **5 割で、最高額 2,000 万円(1級 2,000 万円～14級 44 万円)**
- (3) **負傷等見舞金** 同一の事由による災害に対するスポーツ振興センター給付額の合計の **5割**
令和8年4月1日以降の災害からは、医療費(外来・入院)の合計の2割
- (4) **歯牙欠損見舞金** スポーツ振興センター給付額の **5 割**

この他に、スポーツ振興センターとは関係なく**本会独自の給付金**として次のものがあります。

- (1) **供花料** 生徒が死亡した場合、供花料として **10 万円**を給付します。上記の死亡見舞金とは異なり、交通事故や病気による死亡など、学校管理下でなくても生徒が死亡した場合に給付します。
- (2) **義歯見舞金** スポーツ振興センターの障害見舞金・歯牙欠損見舞金の対象とならない歯科補綴2歯以下について**1歯あたり 5 万円**を給付します。
- (3) **特別見舞金** 災害の状況により、スポーツ振興センターの見舞金給付の対象にならない場合がありますが、そのような特別な事情による死亡又は障害に対しては、審査のうえ特別見舞金を給付することがあります。

Q11. 令和6年度の災害統計について教えてください。

- (1) 新規申請のうち、学校管理下での災害は1,336件です。(令和5年度は1,433件)
- (2) 学校管理下のうち「部活動」が835件で、学校管理下での災害全体の62.5%です。
- (3) 通学時等、学校管理下での自転車事故に起因する災害の申請は104件です。

〔令和6年度災害と給付状況〕

種 類		合 計	
		件数	金額
死亡見舞金 計		0	0
障害見舞金 計		7	4,630,000
負傷等見舞金	新規	1,320	57,127,200
	継続	376	12,105,900
	合計	1,696	69,233,100
歯牙欠損見舞金 計		0	0
義歯見舞金 計		9	700,000
供 花 料 計		13	1,300,000
総 計		1,725	75,863,100

〔負傷等の内訳〕

内 訳	新規	継続	合計
骨 折	590	141	731
捻 挫	106	12	118
脱 臼	66	20	86
打 撲	70	7	77
外 傷	52	2	54
膝 内 障	17	3	20
歯 牙 破 折	40	3	43
アキレス腱断裂	8	9	17
半月板損傷	36	26	62
膝 靱 帯 損 傷	129	126	255
足関節靱帯損傷	101	9	110
ヘルニア	71	13	84
そ の 他	34	5	39
合 計	1,320	376	1,696

※「負傷等見舞金」の欄の「新規」とは、当該年度に第1回目の請求のあったもの。「継続」とは、同一の災害について2回目以降に給付したもの(前年度以前から継続している負傷等見舞金と、当該年度において2回目以降の負傷等見舞金のこと)です。

(参考) 見舞金等給付 過去10年間の推移

年 度	件数 (件)	給付額 (円)	年 度	件数 (件)	給付額 (円)
27	2,010	98,014,600	R2	1,768	72,576,800
28	2,161	102,670,300	R3	1,871	81,391,300
29	2,154	131,642,300	R4	1,783	87,698,200
30	2,171	112,333,100	R5	1,813	69,471,200
R1	2,173	146,974,900	R6	1,725	75,863,100

Q12. 見舞金請求の手続きを教えてください。(Q15.参照)

学校を通しての請求となります。

- (1) 学校管理下で災害が起きたら、まず学校からスポーツ振興センターに見舞金の請求を行います。
- (2) スポーツ振興センターから見舞金が給付されましたら、書類を整え学校から安全振興会に請求します。
- (3) 学校からの請求を受けて、安全振興会は規定に従って給付額を決定し、会員(保護者等)名義の口座に見舞金を振込みます。振込みを確認した後に「見舞金等支払通知書」を校長宛と保護者(会員)宛の双方を学校に送付します。

Q13. 見舞金等の請求には、期限がありますか。

見舞金を請求する権利は、その給付事由が生じた日から3年間請求が行われないときは消滅します。

【給付事由が生じた日】

- ・死亡見舞金/障害見舞金/歯牙欠損見舞金
⇒スポーツ振興センターが死亡見舞金/障害見舞金/歯牙欠損見舞金を給付した日
- ・負傷等見舞金 ⇒スポーツ振興センターの給付額が 15,000 円(窓口負担なしの場合は 3,750 円)に達した日
令和8年4月1日以降の災害からは、医療費(外来・入院)の合計が 37,500 円に達した日
- ・義歯見舞金 ⇒歯科補綴等が完了した日
- ・供花料 ⇒死亡した日

Q14. 見舞金が給付されなかったり、減額されたりすることがありますか。

1. スポーツ振興センターの基準に準じ、次のようなときは見舞金の給付を行いません。
 - (1) 同一の負傷または疾病に関する給付は、スポーツ振興センターの医療費の給付開始後 10 年までです。ただし、障害見舞金の給付については、この限りではありません。
 - (2) 他の法令の規定により国又は地方公共団体の負担において療養若しくは療養費の支給を受け、又は補償若しくは給付を受けたときは、その受けた限度において見舞金の支給を行いません。
 - (3) 非常災害(風水害、震災、事変その他の非常災害であって、当該非常災害が発生した地域の多数の住民が被害を受けたものをいう。)の場合。
 - (4) 自己の故意によるときは、障害若しくは死亡に係る場合。(供花料はこの限りではありません。)
2. 次のようなときは、本会は見舞金給付の一部を行わないことがあります。
 - (1) 第三者から損害賠償を受けた場合、その受けた価額の限度において見舞金の支給を行わないことがあります。
 - (2) 自己の重大な過失によるときは障害若しくは死亡に係る見舞金給付の一部を行わないことがあります。
3. 次のようなときは見舞金の削減・分割をすることがあります。
 - (1) 特別な災害その他の事由により共済契約に係る所定の見舞金を支払うことができない場合には、見舞金の削減を行うことがあります。
 - (2) 見舞金を支払うべき資金に不足が生じたため、支給額を支払うことが困難となった場合は、分割して支払うことがあります。

Q15. 負傷等見舞金について補足してください。(Q12.参照)

負傷等で医療機関に掛かった時、窓口での支払い額(負担額)が医療費の3割の場合を説明します。

① まず、学校から書類を受取り、学校を経由してスポーツ振興センターに請求をします。その請求に基づいて、スポーツ振興センターからは、窓口負担額である医療費の3割と、スポーツ振興センター付加支給分として医療費の1割が加算され、合計して医療費の4割が給付されます。

② 次にスポーツ振興センターから同じ災害での負傷等に対して給付された額が15,000円以上になりましたら、学校から書類を受取り、学校経由で安全振興会へ請求をしてください。安全振興会から、スポーツ振興センター給付額の5割(つまり医療費の2割)を指定された口座にお振込みいたします。

例えば、医療費が10万円の場合、医療機関に3万円を支払います。この場合、請求によりスポーツ振興センターから4万円、安全振興会から2万円の合計6万円の見舞金が給付されます。

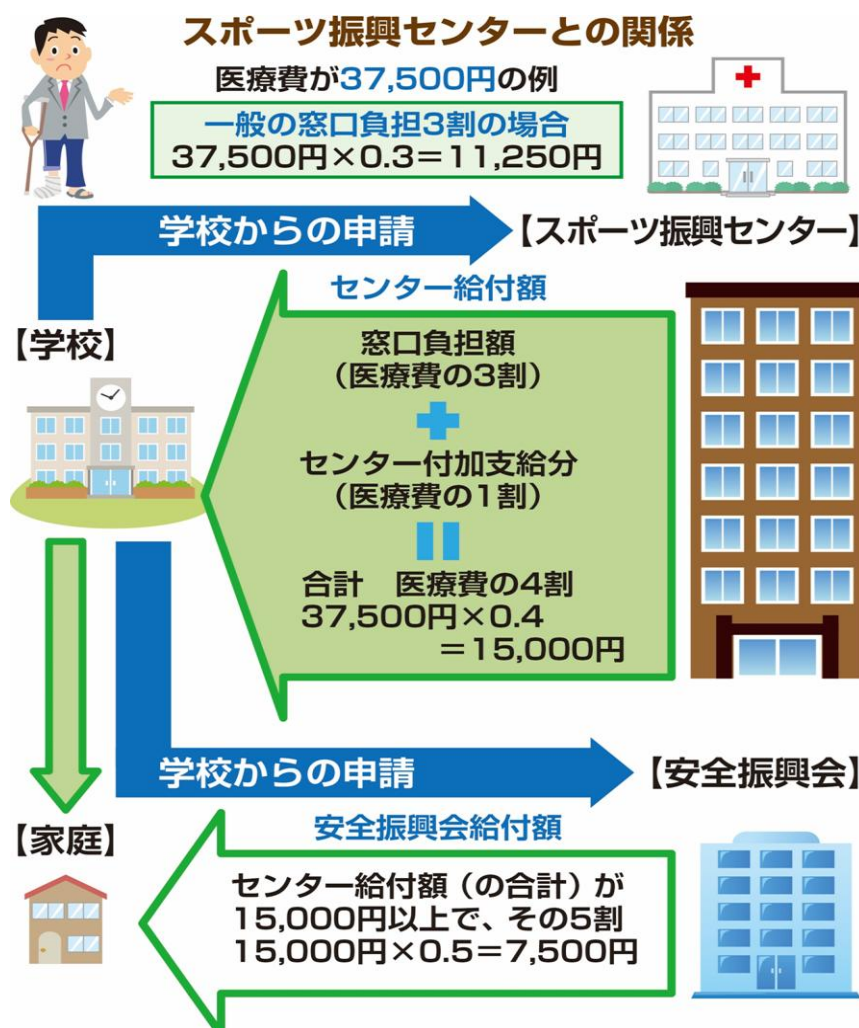
安全振興会の給付対象になるスポーツ振興センターの給付額が15,000円以上とは、医療費が37,500円以上(窓口支払額が11,250円以上)の場合が該当します。医療費が37,500円(窓口支払額が11,250円)未満の場合は安全振興会の給付対象にはなりませんのでご注意ください。

医療費 37,500 円 ⇒ 窓口支払額は 37,500 円 \times 0.3 (3割負担) = 11,250 円

【請求】⇒ スポーツ振興センターから 37,500 円 \times 0.4 = 15,000 円…①

【請求】⇒ 安全振興会から 15,000 円 \times 0.5 = 7,500 円…②

【給付】合計 ①15,000 円 + ②7,500 円 = 22,500 円 が給付されます。

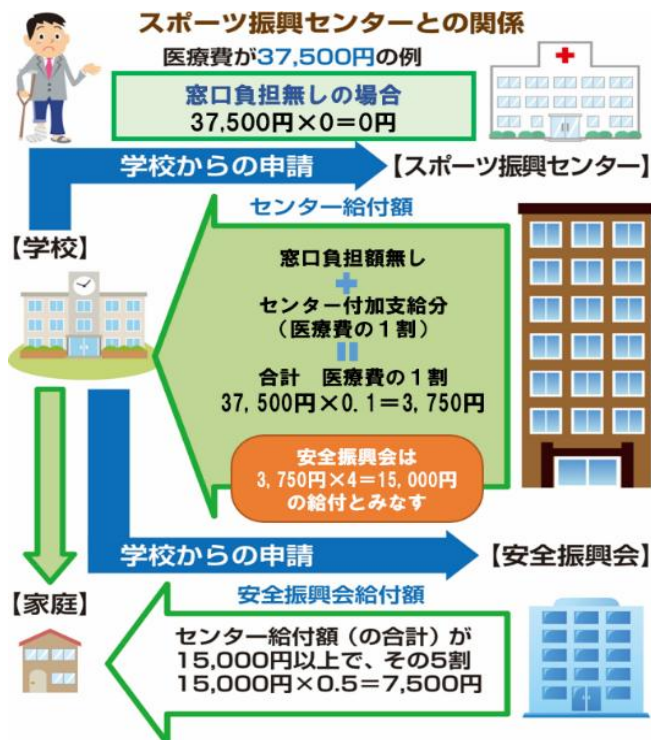


医療機関での窓口負担無しの場合

スポーツ振興センター医療費給付額はセンター付加給付分である医療費の1割となります。

この場合安全振興会では、スポーツ振興センター給付額の4倍を給付額とみなし、その額が15,000円以上となった場合、その5割を給付します。

これにより医療機関での窓口負担無しの場合でも、本会から窓口負担3割の場合と同額の見舞金が給付されます。



令和8年4月1日以降に発生した災害から給付額の算出方法が変わります

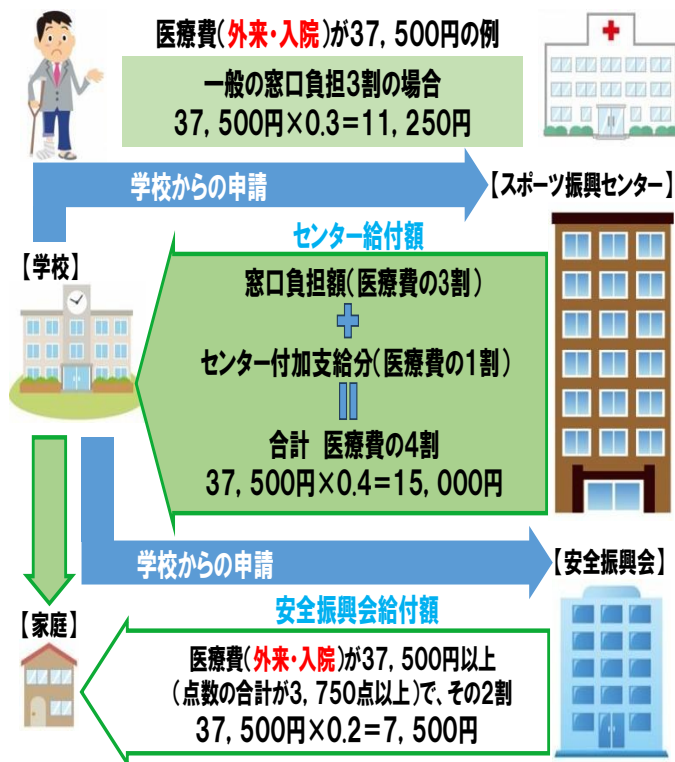
安全振興会から、医療費(外来・入院)の2割を給付します。

※食事療養費及びその他費用は除きます。

図の例でも分かるように、標準的な給付額は変わりません。請求の手続きも変更ありません。

高額療養費制度の対象になる場合など、多くのケースで今までよりも給付額が増加します。

窓口負担の有無などに関わらず、療養に要する費用に応じて一律の額が給付されます。



Q16. 修学奨励制度について教えてください。

生徒の保護者である会員が、学資の支弁が困難であると認められるとき、その生徒に修学奨励金を給付し、修学を奨励します。令和6年度までは給付月額 6,000 円(年額 72,000 円)でしたが、令和7年度から給付年額 80,000 円に増額しました。年度当初学校に配付される要項または本会ホームページをご確認ください。学校推薦となりますので、ご注意ください。令和7年度の募集は以下のとおりでした。

- 出願資格 生徒の保護者等が本会の会員で、次の1)、2)のいずれかに該当する者

1) 「修学奨励金給付基準」第2条に該当する者

- ・生活保護法の基づく保護を受けている者
- ・生活保護法に基づく保護を受けている者に準ずる者で、地方税制の規程により市町村民税の所得割を納付していない者
- ・児童福祉法に基づく措置を受け、児童福祉施設に入所している者等

2) その他特別の事情で学資の支弁が困難な者

※ 他の奨学金との併給が可能です。(返還の必要はありません)

- 給付年額 80,000円
- 定 員 全県立高校全日制・定時制・通信制の各課程、中等教育学校につき各1名
(計 155 名)
- 出願方法 1) 校内で募集が行われます。
2) 校内で奨励生に推薦された者は、修学奨励生願書を学校に提出し、修学奨励生推薦書と合わせて学校から出願されます。
- 締 切 令和7年7月1日(火)必着
- 採 用 1) 選考は理事会にて行います。
2) 採用者は学校長宛に通知します。
- 支 給 日 7月に支給します。
※生徒本人名義の口座に振り込みます。

※ 同じ生徒に、1学年から卒業学年までの間に複数回給付することも可能です。

